

有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成24年1月1日
(第52期) 至 平成24年12月31日

株式会社大塚商会

東京都千代田区飯田橋二丁目18番4号

(E05099)

目 次

	頁
表紙	
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 沿革	3
3 事業の内容	5
4 関係会社の状況	6
5 従業員の状況	7
第2 事業の状況	8
1 業績等の概要	8
2 生産、受注及び販売の状況	10
3 対処すべき課題	11
4 事業等のリスク	11
5 経営上の重要な契約等	12
6 研究開発活動	12
7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	13
第3 設備の状況	16
1 設備投資等の概要	16
2 主要な設備の状況	16
3 設備の新設、除却等の計画	17
第4 提出会社の状況	18
1 株式等の状況	18
(1) 株式の総数等	18
(2) 新株予約権等の状況	18
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	18
(4) ライツプランの内容	18
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	18
(6) 所有者別状況	19
(7) 大株主の状況	19
(8) 議決権の状況	20
(9) ストックオプション制度の内容	20
2 自己株式の取得等の状況	21
3 配当政策	22
4 株価の推移	22
5 役員の状況	23
6 コーポレート・ガバナンスの状況等	27
第5 経理の状況	38
1 連結財務諸表等	39
(1) 連結財務諸表	39
(2) その他	76
2 財務諸表等	77
(1) 財務諸表	77
(2) 主な資産及び負債の内容	100
(3) その他	104
第6 提出会社の株式事務の概要	105
第7 提出会社の参考情報	106
1 提出会社の親会社等の情報	106
2 その他の参考情報	106
第二部 提出会社の保証会社等の情報	107
[監査報告書]	
[内部統制報告書]	

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年3月27日

【事業年度】 第52期(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

【会社名】 株式会社大塚商会

【英訳名】 OTSUKA CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大塚 裕司

【本店の所在の場所】 東京都千代田区飯田橋二丁目18番4号

【電話番号】 03(3264)7111

【事務連絡者氏名】 取締役兼常務執行役員 経営管理本部長 若松 康博

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区飯田橋二丁目18番4号

【電話番号】 03(3264)7111

【事務連絡者氏名】 取締役兼常務執行役員 経営管理本部長 若松 康博

【縦覧に供する場所】 株式会社大塚商会関西支社
(大阪市福島区福島六丁目14番1号)

株式会社大塚商会神奈川営業部
(横浜市神奈川区金港町3番地3)

株式会社大塚商会京葉営業部
(千葉県船橋市葛飾町二丁目340番)

株式会社大塚商会北関東営業部
(さいたま市中央区上落合八丁目1番19号)

株式会社大塚商会神戸支店
(神戸市中央区磯上通八丁目3番5号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第48期	第49期	第50期	第51期	第52期
決算年月	平成20年12月	平成21年12月	平成22年12月	平成23年12月	平成24年12月
売上高 (百万円)	467,154	429,927	463,493	478,215	515,771
経常利益 (百万円)	27,628	16,427	19,508	23,315	29,079
当期純利益 (百万円)	14,371	8,782	10,631	12,744	16,277
包括利益 (百万円)	—	—	—	12,745	16,873
純資産額 (百万円)	97,790	102,779	108,931	117,385	129,268
総資産額 (百万円)	196,946	198,076	213,401	229,610	253,158
1株当たり純資産額 (円)	3,065.54	3,219.46	3,425.67	3,690.81	4,065.43
1株当たり 当期純利益金額 (円)	454.76	277.92	336.42	403.28	515.11
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額 (円)	454.53	277.82	336.28	403.10	—
自己資本比率 (%)	49.2	51.4	50.7	50.8	50.7
自己資本利益率 (%)	15.6	8.8	10.1	11.3	13.3
株価収益率 (倍)	8.9	16.7	16.5	13.1	12.7
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	13,347	15,982	17,851	23,158	25,879
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△6,960	△4,927	△7,527	△4,604	△4,894
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△4,591	△5,417	△5,205	△4,229	△5,190
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	27,169	32,806	37,924	52,320	68,113
従業員数 (外、平均臨時雇用者 数) (人)	8,202 (1,365)	8,278 (1,240)	8,240 (1,093)	8,185 (1,102)	8,103 (1,127)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 第52期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第48期	第49期	第50期	第51期	第52期
決算年月	平成20年12月	平成21年12月	平成22年12月	平成23年12月	平成24年12月
売上高 (百万円)	437,103	401,937	432,919	444,625	474,259
経常利益 (百万円)	25,974	15,271	18,282	21,628	26,053
当期純利益 (百万円)	13,900	8,220	10,018	12,519	14,500
資本金 (百万円)	10,374	10,374	10,374	10,374	10,374
発行済株式総数 (千株)	31,667	31,667	31,667	31,667	31,667
純資産額 (百万円)	93,125	97,433	103,346	111,540	121,520
総資産額 (百万円)	188,687	188,575	204,098	217,797	237,539
1株当たり純資産額 (円)	2,946.87	3,083.19	3,270.31	3,529.63	3,845.46
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額) (円)	130 (—)	130 (—)	135 (—)	155 (—)	200 (—)
1株当たり 当期純利益金額 (円)	439.86	260.13	317.03	396.16	458.87
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	49.4	51.7	50.6	51.2	51.2
自己資本利益率 (%)	15.7	8.6	10.0	11.7	12.4
株価収益率 (倍)	9.2	17.8	17.5	13.4	14.2
配当性向 (%)	29.6	50.0	42.6	39.1	43.6
従業員数 (外、平均臨時雇用者 数) (人)	6,736 (941)	6,778 (833)	6,760 (742)	6,684 (708)	6,638 (682)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

3. 第51期の1株当たり配当額155円には、記念配当10円を含んでおります。

2 【沿革】

年月	事項
昭和36年7月	複写機及びサプライ商品の販売を目的として、東京都千代田区に大塚商会を創業
12月	法人組織に改め、株式会社大塚商会を設立
昭和37年12月	都内拠点展開の第1号店として、東京都品川区に大森支店を開設
昭和40年3月	大阪市大淀区(現北区)に大阪支店(現関西支社)を開設
昭和43年7月	東京都千代田区に本社ビル竣工、本店所在地を移転
昭和45年8月	電算機事業を開始
昭和54年10月	自社開発の業務用パッケージソフト「SMILE」の販売開始
昭和56年7月	パソコン及びワープロ専用機の販売開始
昭和57年5月	「OAセンター」の地区展開及び教育ビジネスを開始
昭和59年2月	CADシステム事業を開始
7月	大塚システムエンジニアリング株式会社(現株式会社OSK)を設立
昭和60年2月	ホテル事業を開始
昭和62年1月	大塚オートサービス株式会社を設立
7月	ネットワーク事業を開始
平成2年4月	企業向けの会員制サポート「トータルαサービス」(現おたすけくん)を開始
8月	株式会社ネットワールドを設立
平成5年5月	株式会社富士見建設(現株式会社ネットプラン)を子会社とする
平成7年6月	商用インターネット接続サービス「α-Web」を開始
平成8年2月	株式会社アルファテクノを設立
9月	インターネットを利用したECショップを開始
11月	株式会社アルファシステムを子会社とする
平成9年5月	株式会社テンアートニ(現サイオステクノロジー株式会社)を設立
8月	台湾に震旦大塚股份有限公司(現大塚資訊科技股份有限公司)を設立
10月	顧客の仕様に基づいたコンピュータの受注仕様組立を目的に、東京CTOセンターを開設
10月	株式会社アルファネットワーク24(現株式会社アルファネット)を設立
平成10年12月	東京CTOセンターにて「ISO9002」を取得
平成11年2月	会員制通信販売「たのメール」(現たのめーる)の販売開始
11月	ASP事業としてのホスティングサービス「α-MAIL」の販売開始
11月	ドキュメント・ソリューション事業「ODS2000」(現ODS21)を開始
平成12年7月	「大塚インターネットデータセンター」を開設
7月	東京証券取引所市場第一部に株式を上場
12月	主要14事業所で「ISO14001」を取得(現25事業所で取得)
平成13年9月	情報セキュリティビジネス「OSM」を開始

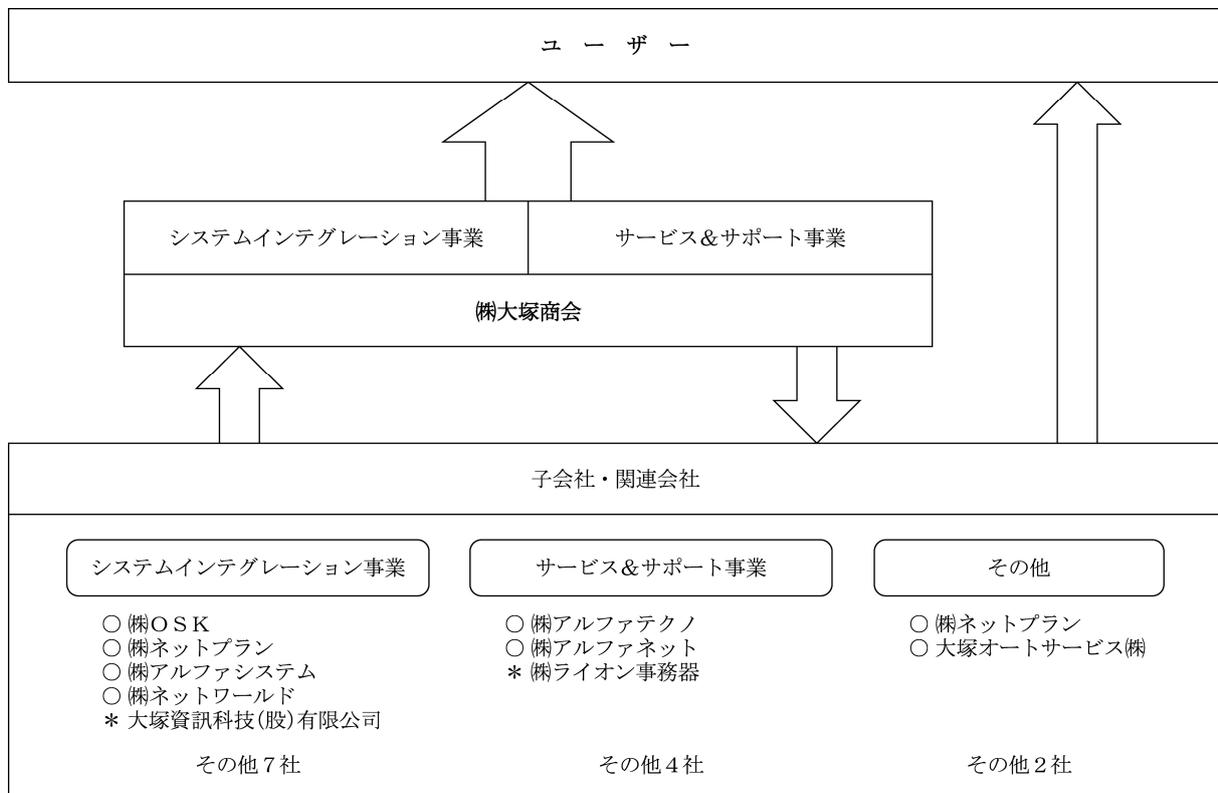
年月	事項
平成15年2月	東京都千代田区に本社ビルを竣工し、本店所在地を移転
4月	トータルαサポートセンター(現たよれーるコールセンター)が、ヘルプデスク協会(米国)から日本初の「HDI組織認定」を取得
平成16年8月	株式会社テンアートニ(現サイオステクノロジー株式会社)が東証マザーズに株式を上場
平成17年10月	財団法人日本情報処理開発協会よりプライバシーマーク認定を取得
平成18年4月	欧智卡信息系统商貿(上海)有限公司を設立
8月	サービス&サポート事業を「たのめーる」と「たよれーる」の2大ブランドに集約
平成19年10月	「SMILEシリーズ」のブランドをOSKに一本化
平成20年5月	株式会社ライオン事務器と業務・資本提携
平成21年2月	「たよれーるマネジメントサービスセンター」開設
平成22年8月	創業50周年に向けて植樹活動やLED街路灯整備等の社会貢献活動を推進
平成23年4月	全館LED照明を導入した横浜ビル竣工
平成24年12月	IR優良企業特別賞受賞

3 【事業の内容】

当社グループは、株式会社大塚商会(当社)及び子会社11社(うち連結子会社7社)と関連会社11社(うち持分法適用会社2社)の計23社により構成されており、情報システムの構築・稼働までを事業領域とするシステムインテグレーション事業と、システム稼働後のサポートを事業領域とするサービス&サポート事業を主な事業としております。

当社、主要な関係会社の位置付け及びセグメントとの関連の系統図は次のとおりであります。

セグメントの名称		事業内容
報告セグメント	システムインテグレーション事業	コンサルティング、ハードウェア・ソフトウェア販売、受託ソフトウェア開発、機器の搬入設置・ネットワーク工事等
	サービス&サポート事業	オフィスサプライ供給、保守サービス、業務支援サービス等
その他		ビル保守・管理、自動車整備・板金、保険代理店業等



○印は、連結子会社 *印は、持分法適用関連会社

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) ㈱OSK	東京都墨田区	400	システムインテグレーション事業	100.0	ソフトウェア開発の委託 役員の兼任あり 貸付金あり 設備の賃貸借あり
㈱ネットプラン	東京都新宿区	499	システムインテグレーション事業及びその他	100.0	電気通信工事・内装工事の委託・建物の保守管理等の委託 役員の兼任なし 貸付金なし 設備の賃貸借あり
㈱アルファシステム	東京都文京区	80	システムインテグレーション事業	100.0	ソフトウェア開発の委託 役員の兼任なし 貸付金あり 設備の賃貸借あり
㈱ネットワールド	東京都千代田区	585	システムインテグレーション事業	81.5	ネットワーク関連商品の仕入等 役員の兼任なし 貸付金なし 設備の賃貸借なし
㈱アルファテクノ	千葉県習志野市	50	サービス&サポート事業	100.0	パソコン周辺機器修理等の委託 役員の兼任なし 貸付金なし 設備の賃貸借あり
㈱アルファネット	東京都文京区	400	サービス&サポート事業	100.0	ネットワークシステムのサポート委託 役員の兼任あり 貸付金なし 設備の賃貸借なし
大塚オートサービス㈱	東京都足立区	50	その他	100.0	自動車の整備・車検等の委託 役員の兼任なし 貸付金あり 設備の賃貸借なし
(持分法適用関連会社) 大塚資訊科技(股)有限公司	台湾省新北市	百万NT\$ 170	システムインテグレーション事業	37.8	CAD/CAMシステムの仕入等 役員の兼任あり 貸付金なし 設備の賃貸借なし
㈱ライオン事務器	大阪府東大阪市	2,677	サービス&サポート事業	40.4	事務用品・オフィス家具の仕入等 役員の兼任あり 貸付金なし 設備の賃貸借なし

- (注) 1. 主要な事業の内容欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。
2. 上記会社は、すべて特定子会社に該当していません。
3. ㈱ライオン事務器は有価証券報告書を提出しております。
4. 上記会社については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合がそれぞれ100分の10以下であるため、主要な損益情報等の記載を省略しております。
5. 議決権の所有割合(%)は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。
6. 従来、連結子会社であった㈱大塚ビジネスサービスは、当社が所有する株式の一部を売却したことにより関連会社となったため、当連結会計年度より連結の範囲から除外しております。
7. 従来、持分法適用関連会社であったサイオステクノロジー㈱は、当社が所有する株式の一部を売却したことにより、重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より持分法の適用範囲から除外しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成24年12月31日現在

会社名	セグメントの名称	従業員数(人)	
(株)大塚商会	システムインテグレーション事業 及びサービス&サポート事業	6,638	(682)
(株)OSK	システムインテグレーション事業	233	(25)
(株)ネットプラン	システムインテグレーション事業 その他	75 18	(9) (—)
(株)アルファシステム	システムインテグレーション事業	163	(12)
(株)ネットワールド	システムインテグレーション事業	325	(31)
(株)アルファテクノ	サービス&サポート事業	318	(91)
(株)アルファネット	サービス&サポート事業	310	(236)
大塚オートサービス(株)	その他	23	(5)
(株)大塚ビジネスサービス	その他	—	(36)
合計		8,103	(1,127)

- (注) 1. 提出会社において特定のセグメントに区分できないため、セグメント別の記載を省略し、それぞれ会社別に記載しております。
2. 従業員数は就業人員です。臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
3. 連結会社間の出向者は、出向先の会社で集計しております。
4. 当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含みます。
5. 臨時従業員には、契約社員、アルバイト、人材会社などからの派遣社員を含んでおり、連結会社からの派遣社員は含んでおりません。
6. 従来、連結子会社であった(株)大塚ビジネスサービスは、当社が所有する株式の一部を売却したことにより関連会社となったため、当連結会計年度より連結の範囲から除外しております。

(2) 提出会社の状況

平成24年12月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
6,638(682)	38.9	14.9	7,802,879

- (注) 1. 特定のセグメントに区分できないため、セグメント別の記載を省略しております。
2. 平均年間給与は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。
3. 従業員数は就業人員です。臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。
4. 当社から社外への出向者15名を除き、社外から当社への出向者9名を含みます。
5. 臨時従業員には、契約社員、アルバイト、人材会社などからの派遣社員を含んでおり、連結子会社からの派遣社員137名は含んでおりません。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておきませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度（平成24年1月1日～平成24年12月31日）におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要もあり緩やかな回復基調にあるものの、世界的な景気減速などの影響により先行き不透明な状況が続きました。

このような経済状況にあつて国内企業のIT投資は、慎重さを伴いながらもシステムの更新や節電対策、BCP（事業継続計画）構築、タブレット等のモバイル端末の活用などの需要に支えられ、底堅く推移しました。

以上のような環境において当社グループは、「お客様の目線で信頼に応え、オフィスを元気にする」を平成24年度のスローガンに掲げ、お客様との接点を強化しコスト削減や生産性向上による競争力強化に繋がるシステム提案を積極的に行いました。また製品やサービスを組み合わせたパック商材の充実、魅力ある「たよれーる（*1）」保守サービスメニューの開発などストックビジネスの強化を通じて、お客様と安定的かつ長期的な取引関係を構築することによる収益基盤の充実に図りました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は5,157億71百万円（前年同期比7.9%増）となりました。利益につきましては、増収に伴う売上総利益の増加により、営業利益282億51百万円（前年同期比22.3%増）、経常利益290億79百万円（前年同期比24.7%増）、当期純利益162億77百万円（前年同期比27.7%増）となりました。

*1 たよれーる＝お客様の情報システムや企業活動全般をサポートする事業ブランド。

(システムインテグレーション事業)

コンサルティングからシステム設計・開発、搬入設置工事、ネットワーク構築まで最適なシステムを提供するシステムインテグレーション事業では、企業のシステム更新や節電対策の需要、IT投資に積極的な企業の需要を掴み、売上高は2,898億40百万円（前年同期比10.4%増）となりました。

(サービス&サポート事業)

サプライ供給、ハード&ソフト保守、テレフォンサポート、アウトソーシングサービスなどにより導入システムや企業活動をトータルにサポートするサービス&サポート事業では、オフィスサプライ通信販売事業「たのめーる（*2）」を堅調に伸ばし、保守等についても前年増となり、売上高は2,252億98百万円（前年同期比5.0%増）となりました。

*2 たのめーる＝MRO(Maintenance, Repair and Operation：消耗品・補修用品など、企業内で日常的に使用されるサプライ用品のこと)事業の中核を担う事業ブランド。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べて157億93百万円増加し、681億13百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動から得られた資金は258億79百万円となり、前連結会計年度に比べ27億21百万円増加いたしました。これは主に、売上債権の増加額が大きくなったものの、営業利益が増加したことに加え、仕入債務の増加額が大きくなったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動に使用した資金は48億94百万円となり、前連結会計年度に比べ2億90百万円増加いたしました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が減少したものの、投資有価証券の取得による支出が増加したことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動に使用した資金は51億90百万円となり、前連結会計年度に比べ9億61百万円増加いたしました。これは主に、配当金の支払額が増加したことによるものです。

また、営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローを合わせたフリー・キャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べて24億30百万円増加し、209億84百万円となりました。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当社グループの主たる業務は、システム導入までのシステムインテグレーションからシステム導入後のサポート等であります。これらは顧客の注文に応じてサービス及びサポートを提供するものであり受注形態も多岐にわたっております。このため数量の把握をはじめ生産概念の意義が薄く、生産実績を把握することは困難でありますので、記載を省略しております。

(2) 商品仕入実績

当連結会計年度の商品仕入実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	前年同期比(%)
システムインテグレーション事業(百万円)	205,175	+9.5
サービス&サポート事業(百万円)	96,563	+7.8
その他(百万円)	28	+87.0
合計(百万円)	301,767	+8.9

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
2. 金額は仕入価額によっております。
3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注状況

当社グループの生産業務の内容は、ハードウェア及びソフトウェアの保守メンテナンスといったサポート業務が主なものであり、個別受注生産の占める割合が少ないため、受注状況の記載を省略しております。

(4) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	前年同期比(%)
システムインテグレーション事業(百万円)	289,840	+10.4
サービス&サポート事業(百万円)	225,298	+5.0
その他(百万円)	632	△ 44.1
合計(百万円)	515,771	+7.9

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当社グループは、経営環境や経営課題の変化に柔軟に対応できるよう経営の質を充実させ、取引顧客の深耕・拡大を軸に総合力を活かして収益力の向上と売上高の伸長を図ります。

そのために対処すべき課題として、

- ・グループ経営力の強化
- ・各事業分野の評価徹底と経営資源の最適配分
- ・サービス開発体制の強化
- ・ワンストップ運営体制の強化
- ・人材の育成

に取り組んでまいります。

4 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、財政状態等に影響を与える可能性のある代表的なリスクには、次のようなものが考えられます。これらの項目は、リスクのうち代表的なものであり、実際に起こりうるリスクは、これらに限定されるものではありません。

なお、文中における将来に関する事項は、本有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 顧客に関するリスク

当社グループの顧客は、大企業から中堅・中小企業まで、企業規模・業種ともに幅広く分散しており、特定顧客への依存度は低いと認識しております。

しかし、予測を超えた経済情勢の変化等により、多くの企業のIT投資動向が同一方向に変化した場合、当社グループの経営に影響を与える可能性があります。

(2) 調達先に関するリスク

当社グループは顧客に応じた最適な問題解決を行うため、多くの調達先から各分野の優れた製品、サービス、技術(以下、製品等)の供給を受けています。これらの安定的な供給を受けられるよう、調達先との緊密な関係作りに注力する一方、新たな製品等に関する情報収集を絶えず行っています。

しかし、調達先の何らかの事情により、製品等の十分な供給が受けられない事態となり、しかも代替品の供給が得られない場合には、顧客に対して製品等の十分な提供ができず、当社グループの経営に影響を与える可能性があります。

(3) 情報漏洩に関するリスク

当社グループでは業務に関連して多数の個人情報及び企業情報を保有しており、これらを厳重に管理しています。また、当社は一般財団法人日本情報経済社会推進協会より「プライバシーマーク」の認定を取得しており、インターネットデータセンターにおいては、「ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)適合性評価制度」の認証を取得しています。

情報管理に係る具体的な施策としては、個人情報保護方針を社内外に公表するとともに、個人情報保護規程、機密管理規程、情報システムセキュリティ規程等の諸規程を定めております。就労者と機密保持誓約書を取り交わした上で、独自の教育制度である「CP(コンプライアンスプログラム)免許制度」などにより情報管理への意識を高め、外部への情報漏洩を防いでいます。

しかし、これらの施策にもかかわらず、個人情報や企業情報が万一漏洩した場合には、損害賠償責任を負うばかりでなく社会的信用を失うこととなり、当社グループの経営に影響を与える可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

(1) 技術の提携

該当事項はありません。

(2) 仕入及び販売についての主な提携

該当事項のうち重要なものはありません。

(3) その他の主な業務提携

該当事項のうち重要なものはありません。

6 【研究開発活動】

当社グループにおける研究開発活動については、当社及び研究開発を担当する子会社である株式会社O S Kが主な対象会社となり、当連結会計年度における研究開発費の総額は、3億77百万円であります。

なお、研究開発活動については、特定のセグメントに関連付けられないため、セグメント別の記載は行っておりません。

当社グループでは、コンピュータシステムのソフトウェアに関する以下のテーマについて研究開発を行っております。その目的は、新しい情報技術や製品の研究を基礎として、オリジナルのソフトウェア製品に常に新しい技術を取り入れ、高機能、高品質で先進的な製品を開発することにあります。この他、システムエンジニアのシステムサポート活動の効率アップを図るために、ソフトウェアの生産効率化ツールの開発にも取り組んでおります。

- ① 新しい情報技術や新製品の利用・活用に関する調査研究
- ② オリジナルソフトウェア製品の開発
 - ・業種・業務パッケージソフトの新製品開発と既存製品の改良
 - ・統合グループウェア関連ソフトの新製品開発と既存製品の改良
- ③ 受託ソフトウェアの開発における生産性向上、高品質化、標準化のための開発ツールの研究及び開発

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表を作成するにあたり重要となる会計方針については、「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について」に記載されているとおりであります。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

(売上状況)

当連結会計年度における当社グループの売上高は、前連結会計年度比375億56百万円増の5,157億71百万円(前連結会計年度比7.9%増)となりました。売上高の状況については、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (1) 業績」に記載しております。

(損益状況)

利益につきましては、増収に伴う売上総利益の増加により、営業利益282億51百万円(前連結会計年度比22.3%増)、経常利益290億79百万円(前連結会計年度比24.7%増)、当期純利益162億77百万円(前連結会計年度比27.7%増)となりました。

(財政状態の分析)

(資産の部)

当連結会計年度末における資産合計は2,531億58百万円となり、前連結会計年度末に比べ235億47百万円増加しました。

流動資産は、「現金及び預金」などが増加したことにより1,889億34百万円と前連結会計年度末比228億66百万円増加しました。固定資産は、642億23百万円と前連結会計年度末比6億81百万円増加しました。

(負債の部)

当連結会計年度末における負債合計は1,238億90百万円となり、前連結会計年度末に比べ116億65百万円増加しました。

流動負債は、「支払手形及び買掛金」などの増加により1,186億82百万円と前連結会計年度末比105億1百万円増加しました。固定負債は、52億7百万円と前連結会計年度末比11億63百万円増加しました。

(純資産の部)

当連結会計年度末における純資産合計は、「利益剰余金」が増加したことなどにより1,292億68百万円と前連結会計年度末に比べ118億82百万円増加しました。

この結果、自己資本比率は50.7%となり、資産合計が増加したことに伴い前連結会計年度末より0.1ポイント低下いたしました。

(キャッシュ・フローの状況の分析)

キャッシュ・フローの状況については、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フロー」に記載しております。

(3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因については、「第2 事業の状況 4 事業等のリスク」に記載しております。

(4) 経営戦略の現状と見通し

今後、国内では復興需要の他、新政権の経済対策、円相場の是正、株高、海外経済の持ち直しによる輸出の回復が見込まれ、国内景気は回復に向かっていくことが予想されます。しかし、世界経済の停滞や国内政策対応の遅れなどにより国内景気が下押しされるリスクが存在し、依然として国内経済の先行きは不透明な状況にあります。

このような経済環境のもとで、国内企業はシステムの更新、IPv6対応などによる買い換え、タブレット等のモバイル端末の活用、節電対応と省電力機器の導入、データセンター利用などによるコスト削減や生産性向上が必要とされています。そのため、企業のIT投資は慎重さを伴いながらも引き続き底堅く推移するものと予想されます。

このような経済状況や企業のIT投資動向に対する見通しを前提として、当社グループは地域密着型運営体制のさらなる強化のもと、お客様との接点を強化してワンストップソリューション、ワンストップサポートに磨きをかけ、コスト削減や生産性向上などお客様の競争力強化に繋がるシステム提案を積極的に行い、当社グループの持つ総合力を今まで以上に発揮していきます。またパック商材や魅力ある「たよれーる(*1)」保守サービスメニューの開発などストックビジネスを強化し、お客様と安定的かつ長期的な取引関係を構築し収益基盤の充実を図ります。

*1 たよれーる=お客様の情報システムや企業活動全般をサポートする事業ブランド。

(システムインテグレーション事業)

システムインテグレーション事業では、企業のIT投資動向やIT活用ニーズを見極めながら、複写機、コンピュータ、FAX、電話機、回線等を組み合わせた複合システム提案や総合提案をさらに推進します。

(サービス&サポート事業)

サービス&サポート事業では、オフィスサプライ通信販売事業「たのめーる(*2)」において、商材の拡充、プライベートブランド商品「TANOSEE」の充実等を図ります。また、サポート事業「たよれーる」において、システムインテグレーション事業での成果を保守等のサービス契約増に繋げ、併せてハードウェアに依存しない新しいサービスを増やします。

*2 たのめーる=MRO (Maintenance, Repair and Operation: 消耗品・補修用品など、企業内で日常的に使用されるサプライ用品のこと) 事業の中核を担う事業ブランド。

なお、本有価証券報告書に記載しております見通しなど将来についての事項は、本有価証券報告書提出日現在において判断したものであり、予測しえない経済状況の変化等さまざまな要因があるため、その結果について当社グループが保証するものではありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、急速な技術革新や市場環境の変化に対応するため、46億18百万円の設備投資を行いました。なお、有形固定資産の他、無形固定資産への投資を含めて記載しております。

システムインテグレーション事業では、主に営業支援環境強化、社内インフラ整備などのため24億84百万円の設備投資を行いました。

サービス&サポート事業では、主にネットワークサポートやシステム運用支援などの社内インフラ強化のため16億43百万円の設備投資を行いました。

2 【主要な設備の状況】

平成24年12月31日現在における当社グループ(当社及び連結子会社)の主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

平成24年12月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	帳簿価額					従業員数 (人)
		建物及び 構築物 (百万円)	土地		その他 (百万円)	合計 (百万円)	
			面積 (㎡)	金額 (百万円)			
本社他 (東京都千代田区他)	システムインテグレーション事業及びサービス&サポート事業	9,744 (791)	7,638	10,519	1,801	22,066	2,004
首都圏グループ (東京都千代田区他)	システムインテグレーション事業及びサービス&サポート事業	6,854 (1,504)	5,293	3,088	341	10,284	2,848
関西支社 (大阪市福島区他)	システムインテグレーション事業及びサービス&サポート事業	1,811 (363)	1,624	924	80	2,815	926
支店 (名古屋市中区他)	システムインテグレーション事業及びサービス&サポート事業	53 (493)	—	—	34	88	719
ホテル事業部 (静岡県熱海市他)	サービス&サポート事業	3,804 (12)	52,443	1,289	102	5,196	141

(2) 子会社

平成24年12月31日現在

セグメントの名称	子会社数	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物及び 構築物 (百万円)	土地		その他 (百万円)	合計 (百万円)	
				面積 (㎡)	金額 (百万円)			
システムインテグレーション事業	4	システムインテグレーション事業関連設備	87 (433)	—	—	173	260	796
サービス&サポート事業	2	サービス&サポート事業関連設備	31 (167)	—	—	60	91	628
その他	2	その他の関連設備	287 (—)	2,142	624	22	934	41

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具、器具備品並びにリース資産であります。
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
3. 提出会社本社他には本社機能を営む事業所が含まれています。
4. 提出会社の首都圏グループ、関西支社には、配下の部・支店を含んでおります。
5. 提出会社の支店には、札幌支店(札幌市中央区)、仙台支店(仙台市宮城野区)、中部支店(名古屋市中区)、京都支店(京都市中京区)、神戸支店(神戸市中央区)、広島支店(広島市中区)、九州支店(福岡市博多区)等を含んでおります。
6. 提出会社のホテル事業部には、ニューさがみや(静岡県熱海市)、琵琶レイクオーツカ(滋賀県大津市)、一宮シーサイドオーツカ(千葉県長生郡)、いじか荘(三重県鳥羽市)を含んでおります。
7. 主要な賃借設備の年間賃借料を()内に外書きで表示しております。
8. 上記の他、主要なリース設備として、以下のものがあります。

(1) 提出会社

平成24年12月31日現在

セグメントの名称	内容	台数	年間賃借料及びリース料 (百万円)
システムインテグレーション事業及びサービス&サポート事業	車両	2,217台	545

(2) 子会社

金額的な重要性がないため記載を省略しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設等の計画は次のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設

該当事項はありません。

(2) 重要な改修、除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	112,860,000
計	112,860,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年3月27日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	31,667,020	31,667,020	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	31,667,020	31,667,020	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成12年7月14日 (注)	3,000	31,667	6,375	10,374	13,470	16,254

(注) 有償・一般募集

発行価額 4,250円

資本組入額 2,125円

発行価格 7,000円

(6) 【所有者別状況】

平成24年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	50	28	67	330	1	4,057	4,533	—
所有株式数(単元)	-	57,678	2,226	101,229	77,160	1	78,301	316,595	7,520
所有株式数の割合(%)	-	18.21	0.70	31.97	24.37	0.00	24.73	100	—

(注) 自己株式 65,994株は、「個人その他」に659単元及び「単元未満株式の状況」に94株を含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成24年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
大塚装備株式会社	東京都千代田区飯田橋2-18-4	9,788	30.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	1,429	4.51
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	1,210	3.82
大塚商会社員持株会	東京都千代田区飯田橋2-18-4	1,160	3.66
大塚 裕司	東京都新宿区	946	2.99
大塚 厚志	東京都目黒区	945	2.98
大塚 実	東京都目黒区	945	2.98
大塚 照恵	東京都練馬区	645	2.03
サジャップ (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	P.O. BOX 2992 RIYADH 11169 KINGDOM OF SAUDI ARABIA (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	533	1.68
ゴールドマンサックスインターナショナル (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB, UK (東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー)	513	1.62
計	—	18,118	57.21

(注) フィデリティ投信株式会社及びその共同保有者であるエフエムアール エルエルシー (FMR LLC) から、平成23年2月4日付の大量保有報告書(変更報告書)の写しの送付があり、平成23年1月31日現在でそれぞれ以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況に含めておりません。

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
フィデリティ投信株式会社	東京都港区虎ノ門4丁目3番1号 城山トラストタワー	1,560	4.93
エフエムアール エルエルシー (FMR LLC)	米国 02109 マサチューセッツ州ボストン、 デヴァンシャー・ストリート82 (82 Devonshire Street, Boston, Massachusetts 02109, USA)	119	0.38

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 65,900	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 31,593,600	315,936	—
単元未満株式	普通株式 7,520	—	—
発行済株式総数	31,667,020	—	—
総株主の議決権	—	315,936	—

(注) 「単元未満株式」の中には、当社保有の自己株式が次のとおり含まれております。
自己株式 94株

② 【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社大塚商会	東京都千代田区 飯田橋2-18-4	65,900	—	65,900	0.20

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	139	954,000
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式には、平成25年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他(一)	—	—	—	—
保有自己株式数	65,994	—	65,994	—

(注) 当期間における保有自己株式には、平成25年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は株主の皆様への利益配分を最も重要な経営課題の一つと認識しており、経営基盤の強化と財務体質の健全性を勘案しつつ、安定的な配当の継続を業績に応じて行うことを基本方針としております。また、事業年度における配当回数につきましては、通期の業績を踏まえて、年1回としております。

このような方針に基づき、当事業年度の株主配当金につきましては、1株当たり配当金を200円とし、ご支援を賜った株主の皆様への利益還元を実施させていただきました。この結果、当事業年度の配当性向は43.6%となりました。

なお、当社における剰余金の期末配当の決定機関は、定時株主総会であります。また当社は、「取締役会の決議により、毎年6月30日を基準として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成25年3月27日 定時株主総会決議	6,320	200

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第48期	第49期	第50期	第51期	第52期
決算年月	平成20年12月	平成21年12月	平成22年12月	平成23年12月	平成24年12月
最高(円)	9,460	6,200	7,150	6,170	7,320
最低(円)	3,870	3,070	4,605	4,100	5,150

(注) 最高・最低価格は東京証券取引所(市場第一部)におけるものです。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	7,090	7,320	7,050	6,980	6,670	6,910
最低(円)	6,670	6,820	6,520	6,440	6,140	6,450

(注) 最高・最低価格は東京証券取引所(市場第一部)におけるものです。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	マーケティング本 部長	大塚 裕 司	昭和29年2月13日生	昭和51年4月 株式会社横浜銀行入行 昭和55年12月 株式会社リコー入社 昭和56年11月 当社入社 平成4年3月 取締役就任 平成5年3月 常務取締役就任 平成6年3月 専務取締役就任 平成7年3月 取締役副社長(代表取締役) 就任 平成12年8月 大塚装備株式会社 代表取 締役社長(現任) 平成13年8月 取締役社長(代表取締役)就 任 平成18年3月 代表取締役社長就任(現任)	(注) 2	946
取締役兼 専務執行役員	営業本部長、マー ケティング副本部 長	片倉 一 幸	昭和27年6月11日生	昭和51年3月 当社入社 平成8年10月 C A D販売促進部長 平成9年3月 取締役就任 平成11年3月 常務取締役就任 平成15年7月 常務取締役兼上席執行役員 就任 平成18年3月 取締役兼上席常務執行役員 就任 平成20年3月 取締役兼専務執行役員就任 (現任)	(注) 2	10
取締役兼 専務執行役員	M R O 事業部長、 たのめるマーケ ティング部長	高橋 俊 泰	昭和25年11月7日生	昭和48年3月 当社入社 平成12年7月 M R O 事業部長 平成14年3月 取締役就任 平成15年7月 取締役兼上席執行役員就任 平成18年3月 取締役兼常務執行役員就任 平成22年3月 取締役兼上席常務執行役員 就任 平成23年3月 取締役兼専務執行役員就任 (現任)	(注) 2	16
取締役兼上席 常務執行役員	ビジネスパートナ ー事業部長、ホテ ル事業部担当	塩川 公 男	昭和25年7月1日生	昭和48年3月 当社入社 平成6年3月 福岡支店長 平成8年3月 取締役就任 平成15年7月 取締役兼上席執行役員就任 平成19年3月 取締役兼常務執行役員就任 平成22年3月 取締役兼上席常務執行役員 就任(現任)	(注) 2	15

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役兼 常務執行役員	関西支社長、エリア 部門長、エリア プロモーション部 担当	矢野 克尚	昭和30年6月18日生	昭和54年3月 当社入社 平成12年7月 LA事業部長 平成14年3月 取締役就任 平成15年7月 取締役兼上席執行役員就任 平成22年3月 取締役兼主席執行役員就任 平成23年3月 取締役兼常務執行役員就任 (現任)	(注) 2	6
取締役兼 常務執行役員	プロジェクト推進 室長、監査室担当	齋藤 廣伸	昭和24年7月17日生	昭和43年8月 当社入社 平成12年10月 経営企画室長 平成15年7月 執行役員就任 平成19年3月 取締役兼上席執行役員就任 平成23年3月 取締役兼常務執行役員就任 (現任)	(注) 2	30
取締役兼 常務執行役員	経営管理本部長	若松 康博	昭和24年10月8日生	昭和47年3月 神戸生絲株式会社入社 昭和60年4月 当社入社 平成10年3月 経理部長 平成15年7月 執行役員就任 平成20年3月 取締役兼上席執行役員就任 平成23年3月 取締役兼常務執行役員就任 (現任)	(注) 2	5
取締役兼 常務執行役員	CAD部門長、C ADプロモーション 部長	鶴見 裕信	昭和30年7月23日生	昭和54年3月 当社入社 平成13年11月 震旦大塚(股)有限公司(現大塚 資訓科技(股)有限公司) 董事長(現任) 平成16年7月 執行役員就任 平成18年3月 上席執行役員就任 平成22年3月 取締役兼上席執行役員就任 平成25年3月 取締役兼常務執行役員就任 (現任)	(注) 2	5
取締役兼 常務執行役員	技術本部長、AP ソリューション部 門長、TCソリュー ーション部門長、 テクニカルソリュー ーションセンター 長、サービスセン ター長	桜井 実	昭和32年3月27日生	昭和54年3月 当社入社 平成15年7月 テクニカルソリューション センター長 平成17年3月 執行役員就任 平成22年3月 上席執行役員就任 平成23年3月 取締役兼上席執行役員就任 平成25年3月 取締役兼常務執行役員就任 (現任)	(注) 2	3
取締役兼 上席執行役員	システム部門長、 本部SI統括部 長、システムプロ モーション部長	広瀬 光哉	昭和30年10月18日生	昭和54年3月 当社入社 平成13年4月 業種販売促進部長 平成15年7月 執行役員就任 平成18年3月 上席執行役員就任 平成23年3月 取締役兼上席執行役員就任 (現任)	(注) 2	5
取締役兼 上席執行役員	LA事業部長、L A事業部広域グル ープ長	田中 修	昭和28年5月17日生	昭和52年3月 当社入社 平成13年7月 LA首都圏営業部長 平成18年3月 執行役員就任 平成22年3月 上席執行役員就任 平成24年3月 主席執行役員就任 平成25年3月 取締役兼上席執行役員就任 (現任)	(注) 2	7
取締役兼 上席執行役員	経営管理本部長代 理、環境管理室 長、コンプライア ンス室長	森谷 紀彦	昭和28年11月24日生	昭和59年6月 当社入社 平成16年1月 人事部長 平成21年3月 執行役員就任 平成23年3月 上席執行役員就任 平成24年3月 主席執行役員就任 平成25年3月 取締役兼上席執行役員就任 (現任)	(注) 2	1

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		中野 清	昭和26年2月28日生	昭和48年4月 高千穂交易株式会社入社 昭和56年4月 当社入社 平成8年7月 福岡支店長 平成18年3月 執行役員就任 平成22年3月 参与就任 平成23年3月 常勤監査役就任(現任)	(注) 3	6
監査役		牧野 二郎 (注) 1	昭和28年5月14日生	昭和58年4月 弁護士登録 平成2年8月 牧野総合法律事務所(現牧野 総合法律事務所弁護士法人) 開設 所長(現任) 平成16年3月 当社監査役就任(現任)	(注) 4	—
監査役		杉山 幹夫 (注) 1	昭和23年2月22日生	昭和55年3月 公認会計士登録 昭和55年6月 税理士登録 昭和59年1月 森公認会計士共同事務所・ 杉山税理士事務所(現杉山公 認会計士事務所)開設 所長 (現任) 平成元年4月 医業経営コンサルタント(経 営)登録 平成19年3月 当社監査役就任(現任)	(注) 4	—
監査役		仲井 一彦 (注) 1	昭和26年8月31日生	昭和51年8月 監査法人中央会計事務所入 所 昭和56年3月 公認会計士登録 平成7年11月 中央監査法人代表社員 平成17年3月 税理士登録 仲井一彦税理士事務所開設 所長(現任) 平成19年7月 新日本監査法人(現新日本有 限責任監査法人)代表社員 平成22年7月 仲井一彦公認会計士事務所 開設 所長(現任) 平成23年6月 日本アンテナ株式会社監査 役(現任) 平成24年3月 当社監査役就任(現任)	(注) 4	—
計						1,063

- (注) 1. 監査役の牧野二郎、杉山幹夫、仲井一彦は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
2. 平成25年3月27日開催の定時株主総会で選任後、平成26年度に関する定時株主総会の終結の時まで
3. 平成23年3月29日開催の定時株主総会で選任後、平成26年度に関する定時株主総会の終結の時まで
4. 平成24年3月28日開催の定時株主総会で選任後、平成27年度に関する定時株主総会の終結の時まで
5. 当社は、コーポレートガバナンスの強化と経営効率化をより一層図るため、平成15年7月より執行役員制度を導入しております。各執行役員は上記の取締役兼務者のほか、次の者で構成されております。

役名	職名	氏名
常務執行役員	北関東営業部長	山 幸司
上席執行役員	中央第一営業部長	藤野 卓雄
上席執行役員	神奈川営業部長	奥山 和悦
上席執行役員	システム副部門長	水谷 亮介
上席執行役員	共通基盤プロモーション部長、地域プロモーション部長、Webプロモーション部長、ブランド戦略室長	後藤 和彦
上席執行役員	トータルソリューショングループ長、SPR・CRMセンター長	大谷 俊雄
上席執行役員	大阪南営業部長	西岡 績
上席執行役員	サポートセンター部門長、たよれーるコンタクトセンター長、たよれーる管理センター長	関口 淳一
上席執行役員	通信ネットワーク部門長、通信ネットワークプロモーション部長	植野 弘治
上席執行役員	中央第二営業部長	三浦 秀明
執行役員	城西営業部長	小瀬村 聖
執行役員	商品部長、物流推進部担当	本多 豊
執行役員	MRO事業部長補佐、MRO営業部長	松本 周市
執行役員	ビジネスパートナー事業部長補佐、ビジネスパートナー事業部東日本営業部長	長坂 英夫
執行役員	多摩営業部長	清野 憲秀
執行役員	経営計画室長、経理部長、業務管理部担当	斉藤 健治
執行役員	神戸支店長	伊藤 憲次

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは、以下のミッションステートメントに定める企業倫理と遵法の精神に基づき、コンプライアンスの徹底、経営の透明性と公正性の向上により、環境変化への機敏な対応と競争力の強化を目指しております。

<ミッションステートメント>

《使命》

大塚商会は多くの企業に、情報・通信技術の革新によってもたらされる新しい事業機会や経営改善の手段を具体的な形で提供し、企業活動全般にわたってサポートします。そして、各企業の成長を支援し、わが国のさらなる発展と心豊かな社会の創造に貢献しつづけます。

《目標》

- ・社会から信頼され、支持される企業グループとなる。
- ・従業員の成長や自己実現を支援する企業グループとなる。
- ・自然や社会とやさしく共存共栄する先進的な企業グループとなる。
- ・常に時代にマッチしたビジネスモデルを創出しつづける企業グループとなる。

《行動指針》

- ・常にお客様の目線で考え、お互いに協力して行動する。
- ・先達のチャレンジ精神を継承し、自ら考え、進んで行動する。
- ・法を遵守し、社会のルールに則して行動する。

① 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

イ. 企業統治の体制及びその体制を採用する理由

当社は会社の機関として、株主総会、取締役及び取締役会、監査役及び監査役会並びに会計監査人を設置しております。

当社の事業領域は多岐にわたっており、これらの領域を理解し、またIT産業に精通していることが重要であるため、社外取締役を主体としたガバナンス体制は適していないと判断し、監査役制度を採用しております。

なお、社外監査役には、法律または財務及び会計に関する相当程度の識見及び経験を有している者を選任しております。社外監査役は取締役会に出席し、取締役の意思決定及び業務執行に対する監視を行っていることから、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っていると判断し、現状の体制としております。

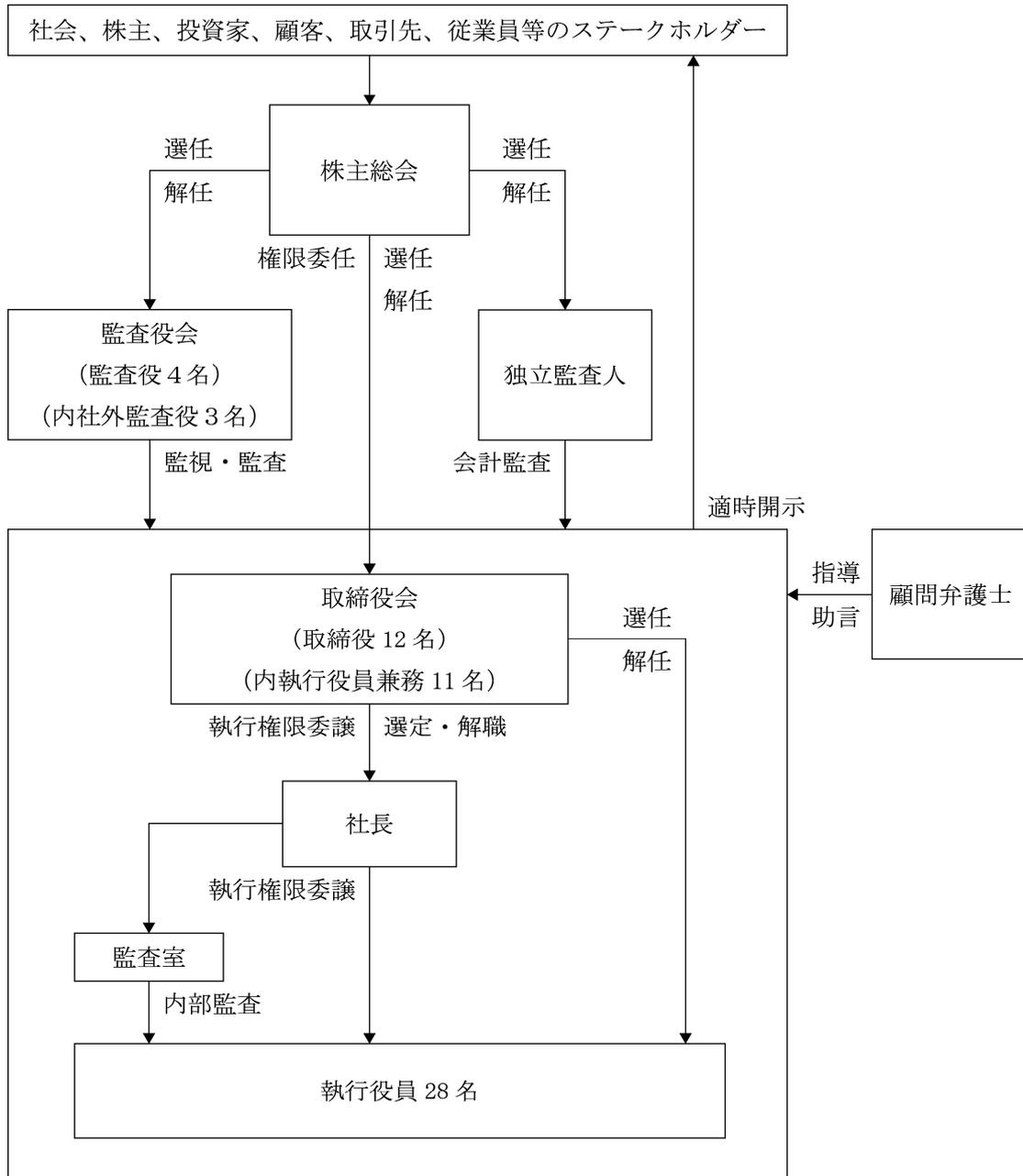
取締役会は、毎月1回定時開催し、法令及び定款の規定により取締役会の決議を要する重要事項を審議・決定するとともに、取締役の職務の執行を監督しております。また、執行役員制度を導入することにより、取締役会で選任された執行役員が業務執行機能を担い、取締役会及び監査役が業務執行の監督機能を担うことで、執行と監督の分離を図り、業務執行の意思決定の迅速化及び取締役会の監督機能の強化を図っております。

監査役会は、社外監査役3名を含む4名の監査役で構成しております。取締役会等、重要な会議体へ出席して適宜助言・勧告を行い、経営の適正な監視及び取締役の職務執行を厳正に監査しております。

さらに、グループ企業の経営トップ(特別執行役員)で構成される「グループ経営者会議」を開催し、各社の経営状況や利益計画の進捗を把握するとともに、コーポレート・ガバナンスの強化に努めております。

ロ. 図表

当社経営の意思決定、業務執行、監督の体制は概ね以下のとおりです。



ハ. 内部統制システム整備の状況

当社は、会社法第362条第5項に従い、取締役会において、業務の適正を確保するための体制の基本方針を次のとおり決議いたしました。

○内部統制システムの基本方針

a. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

ミッションステートメントをコンプライアンス体制の基礎として、取締役はその遵守及び推進に率先垂範して取り組む。

取締役及び使用人は、継続的なコンプライアンス教育による意識改善、内部監査による業務改善、内部通報制度の適切な活用等を通じてコンプライアンス体制の向上を図り、職務執行の法令及び定款への適合を確保することに努める。

b. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行に係る情報(文書又は電磁的記録)及びその他の重要な情報を、法令及び社内規程に基づき、適切に保存、管理する。

c. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

社内規程に則してリスク管理体制の整備を進め、経営成績、財政状態等に影響を及ぼすリスクを識別、分析及び評価し、適切な対応を行う。

不測の事態が生じた場合には、対策本部を設置し、リスク情報を集約し、迅速かつ適切な対応策を講じる。

d. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会は、原則月1回開催し、経営に関する重要事項について、審議、決議及び業務執行状況の監督を行う。また、意思決定の妥当性を高めるための会議体についてその開催及び付議基準を明確化し、業務執行の詳細を「職務権限規程」及び「職務分掌規程」に定め、効率性を高めるものとする。

e. 当社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

グループ企業は、ミッションステートメントに則した業務執行により、自浄作用を機能させることで業務の適正を確保する。

「グループ経営者会議」の開催で、各グループ企業の経営状況や利益計画の進捗を把握するとともに、「特別執行役員制度」により各グループ企業のコーポレートガバナンスの強化に努めるものとする。

f. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及び当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役からその職務を補助すべき使用人の設置を求められた場合は、監査役と協議のうえ適切な体制を構築する。

当該使用人への人事権に係る事項の決定については、監査役の事前の同意を得ることにより取締役からの独立性を確保する。

g. 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制及びその他の監査役への報告に関する体制

監査役が取締役及び使用人から業務執行の状況について報告を受けることができる体制を整備するとともに、監査を実施する社内各部署との協調・連携を強化する。

- h. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
代表取締役は、監査役と適宜意見交換を行うこととする。
内部監査室は監査役と緊密な関係を保ち、監査役の要請に応じて調査を行うこととする。

○反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

a. 基本的な考え方

当社は、ミッションステートメント及びコンプライアンス規程において、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては毅然とした態度で臨み、一切関係を持たないことを規定しております。

b. 整備状況

当社は、ミッションステートメント及びコンプライアンスマニュアルにおいて、反社会的勢力に対する行動指針を示すとともに、コンプライアンス室と人事総務部を対応部署としております。

また、顧問弁護士や警察及び公益社団法人警視庁管内特殊暴力防止対策連合会等の外部機関と連携して社内体制の整備と情報収集を行うとともに、社員への行動指針の周知徹底を図っております。

ニ. 内部監査及び監査役監査の状況

内部監査については、社長直轄の監査室を設置しており、当社グループ全体を対象に、業務活動の全般に関して、方針・計画・手続の妥当性や業務実施の有効性、法令の遵守等について、定期・随時に内部監査を実施し、業務改善や意識改善のための具体的な助言・勧告を行っております。

監査役監査については、監査役会が監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、取締役、監査室等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役等からその職務の執行状況について報告を受け、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査しております。また、内部統制システムの状況を監視及び検証しております。

監査役と監査室の連携状況は、月1回、定期的に会合を開催し、監査計画、監査実施状況、業務執行状況等に関する情報交換を行い、必要に応じて対処しております。

監査役と会計監査人の連携状況は、適宜会合を開催し、監査計画、監査実施状況、指摘事項の改善状況の確認、取締役の行為の適法性の確認等に関する情報交換を行い、必要に応じて対処しております。

ホ. 会計監査の状況

当社は、会計監査を担当する会計監査人として新日本有限責任監査法人と監査契約を結び、会計監査を受けております。

当期において業務執行した公認会計士の氏名及び監査業務に係る補助者の構成は以下のとおりです。

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員 坂田 純孝

指定有限責任社員 業務執行社員 向井 誠

指定有限責任社員 業務執行社員 江下 聖

会計監査業務に係る補助者の人数

公認会計士 10名

その他 9名

※継続監査年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しております。

へ. 社外取締役及び社外監査役との関係

当社は、社外取締役及び社外監査役を選任するにあたり、独立性に関する基準等を定めておりませんが、選任に当たっては、東京証券取引所の規則等の独立性に関する諸規定を参考に、経歴や当社との関係から個別に判断し、当社からの独立性を確保できる者を選任しております。社外取締役は現在選任しておりませんが、適切な候補者の選任に今後も努めてまいります。

社外監査役は、次の3名を選任しており、それぞれ取締役会に出席し識見及び経験を活かした意見を積極的に表明しており、これにより取締役会の判断に牽制を働かせております。

監査役牧野二郎氏は、弁護士としての資格を有しているところから社外監査役に選任しております。また、株式会社東京証券取引所の定める独立役員として、同取引所に対し届出を行っております。

監査役杉山幹夫氏は、公認会計士としての資格を有しているところから社外監査役に選任しております。また、株式会社東京証券取引所の定める独立役員として、同取引所に対し届出を行っております。

監査役仲井一彦氏は、公認会計士としての資格を有しているところから社外監査役に選任しております。また、株式会社東京証券取引所の定める独立役員として、同取引所に対し届出を行っております。

なお、監査役仲井一彦氏の重要な兼職先である日本アンテナ株式会社と当社との間には、特別の利害関係等はありません。

また、同氏は、平成19年に新日本監査法人（現新日本有限責任監査法人）に代表社員として入所し、平成22年に新日本有限責任監査法人を退職しております。当社は新日本有限責任監査法人と契約を結び、会計監査を受けておりますが、同法人と当社との間には、特別の利害関係等はありません。

上記各氏と当社との間には、特別の利害関係等はありません。

ト. 社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外監査役は、監査役会において監査報告、内部統制委員会からの内部統制の整備・運用状況等に関する報告並びに監査室からの内部監査の報告を定期的に受け取ることにより、当社グループの現状と課題を把握し、専門的な見地から、必要に応じて取締役会において意見を表明しております。また、会計監査人及び監査室をはじめとする内部監査部門との情報交換・意見交換を適宜行い、監査情報の共有に努めております。

② リスク管理体制の整備の状況

リスク管理体制については、事業リスクマネジメントを推進及び統括するための組織としてリスク管理委員会を設置しております。

リスク管理委員会は、会社に関係する全てのリスクを洗い出し評価を行い、重要なリスクについては個別対策を検討し、各所管部門・部署に対してリスク管理を継続的かつ安定的に維持・運用するために、リスクマネジメントシステムの構築を指示しております。同時に危機管理への対応として、

a. 平常時における危機管理への準備、b. 危機発生時の対応、c. 事業継続計画・管理への取り組みも進めております。

③ 役員報酬の内容

イ. 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別総額(百万円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役	364	245	74	43	12
監査役 (社外監査役を除く。)	22	17	—	4	2
社外監査役	14	14	—	—	3

- (注) 1. 上記には、平成24年3月28日開催の第51回定時株主総会終結の時をもって任期満了により退任した監査役1名を含んでおります。
2. 取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
3. 取締役の報酬限度額は、平成2年3月13日開催の株主総会決議において年額650百万円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)と決議いただいております。
4. 監査役の報酬限度額は、平成17年3月30日開催の株主総会決議において年額50百万円以内と決議いただいております。
5. 上記の退職慰労金には、当事業年度における役員退職慰労引当金の増加額が含まれております。

ロ. 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

当社の役員の報酬等は、取締役については基本報酬、賞与および退職慰労金により構成され、それぞれの決定方針は以下の通りであります。基本報酬は、株主総会にて決議された総額の範囲内において、使用人の最高位の年収を基礎とし、その職位毎に役割の大きさに応じて決定する固定報酬としております。賞与は、経営に対する貢献度に連動させるため、営業利益達成率と役員個人の業績貢献度を元に決定しております。また、監査役報酬については、株主総会にて決議された総額の範囲内において、監査役会にて協議により決定しております。退職慰労金は、原則常勤役員に対して役員毎に年間基本額を設定しており、会社及び個人業績を加減した金額を退任時に支払うこととしております。なお、ストックオプション制度は採用しておりません。

④ 株式の保有状況

イ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数	65銘柄
貸借対照表計上額の合計額	2,404百万円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である上場投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
(前事業年度)
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
テンブホールディングス株式会社	1,000,000	695	取引関係の円滑化・維持
株式会社リコー	213,192	143	同上
株式会社横浜銀行	382,204	139	同上
スリープログループ株式会社	1,200	93	同上
大和ハウス工業株式会社	100,000	91	同上
株式会社クレディセゾン	50,000	77	同上
ウチダエスコ株式会社	180,000	70	同上
ビリングシステム株式会社	500	52	同上
株式会社明光ネットワークジャパン	60,000	41	同上
大東建託株式会社	4,600	30	同上
株式会社京葉銀行	50,000	19	同上
日本ゼオン株式会社	26,230	17	同上
田辺三菱製薬株式会社	13,300	16	同上
ジェイ・エスコムホールディングス株式会社	150,000	13	同上
日本化薬株式会社	14,317	10	同上
株式会社バンダイナムコホールディングス	9,504	10	同上
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	29,110	9	同上
飯野海運株式会社	25,289	8	同上
協和発酵キリン株式会社	8,000	7	同上
イワブチ株式会社	13,229	5	同上
レンゴー株式会社	7,600	4	同上
第一生命保険株式会社	43	3	同上
株式会社ハイパー	6,000	3	同上
株式会社みずほフィナンシャルグループ	21,520	2	同上
森永製菓株式会社	11,860	2	同上
株式会社オートバックスセブン	500	1	同上
株式会社大京	9,400	1	同上
株式会社マルゼン	2,000	1	同上
キヤノンマーケティングジャパン株式会社	1,155	1	同上
株式会社土屋ホールディングス	6,906	0	同上

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
テンプホールディングス株式会社	1,000,000	1,068	取引関係の円滑化・維持
株式会社リコー	237,803	215	同上
株式会社横浜銀行	382,204	152	同上
大和ハウス工業株式会社	100,000	147	同上
株式会社クレディセゾン	50,000	107	同上
大東建託株式会社	13,100	106	同上
ウチダエスコ株式会社	180,000	91	同上
スリープログループ株式会社	360,000	72	同上
株式会社明光ネットワークジャパン	60,000	57	同上
ピリングシステム株式会社	500	35	同上
日本ゼオン株式会社	27,608	20	同上
株式会社京葉銀行	50,000	19	同上
田辺三菱製薬株式会社	13,300	14	同上
日本化薬株式会社	15,097	14	同上
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	29,110	13	同上
株式会社バンダイナムコホールディングス	9,504	10	同上
ジェイ・エスコムホールディングス株式会社	150,000	10	同上
飯野海運株式会社	26,558	8	同上
協和発酵キリン株式会社	8,000	6	同上
イワブチ株式会社	14,692	5	同上
第一生命保険株式会社	43	5	同上
株式会社みずほフィナンシャルグループ	21,520	3	同上
レンゴー株式会社	7,600	3	同上
株式会社ハイパー	6,000	2	同上
株式会社土屋ホールディングス	7,562	2	同上
森永製菓株式会社	12,867	2	同上
株式会社大京	9,400	2	同上
株式会社オートバックスセブン	500	1	同上
キヤノンマーケティングジャパン株式会社	1,155	1	同上
株式会社マルゼン	2,000	1	同上

ハ. 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

⑤ 取締役の定数

当社の取締役は19名以内とする旨を定款に定めております。

⑥ 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

⑦ 取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。

また、取締役の選任決議については、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

⑧ 剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の期末配当の決定機関を定時株主総会としております。

⑨ 中間配当

当社は、取締役会の決議によって毎年6月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を可能にするためであります。

⑩ 自己株式の取得

当社は、経済情勢の変化に対応した機動的な資本政策を遂行できるようにするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

⑪ 取締役及び監査役の責任免除

該当事項はありません。

⑫ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	74	3	73	—
連結子会社	13	—	13	—
計	87	3	87	—

② 【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

当社は、監査公認会計士等に対して、国際財務報告基準(I F R S)に関するコンサルティングを依頼し、対価を支払っております。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社は、監査公認会計士等が独立した立場において公正かつ誠実に監査証明業務を行えるよう、監査日数、業務の特性、規模等を勘案し、監査報酬を適切に決定することとしております。

第5 【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成24年1月1日から平成24年12月31日まで)及び事業年度(平成24年1月1日から平成24年12月31日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入するとともに、会計基準設定主体等の行う研修への参加等により、積極的な情報収集活動に努めております。

1 【連結財務諸表等】
 (1) 【連結財務諸表】
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	※2 45,600	※2 61,519
受取手形及び売掛金	※4 79,558	※4 86,983
有価証券	5,000	5,000
商品	15,833	14,298
仕掛品	818	1,271
原材料及び貯蔵品	961	924
繰延税金資産	3,723	3,272
その他	15,028	15,963
貸倒引当金	△455	△300
流動資産合計	166,068	188,934
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	65,059	65,309
減価償却累計額及び減損損失累計額	△38,835	△40,244
建物及び構築物（純額）	26,224	25,065
土地	※3 17,291	※3 17,259
その他	14,525	14,335
減価償却累計額及び減損損失累計額	△11,426	△11,196
その他（純額）	3,099	3,139
有形固定資産合計	46,614	45,464
無形固定資産		
ソフトウェア	5,197	4,867
その他	158	113
無形固定資産合計	5,355	4,980
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 4,918	※1 6,021
差入保証金	2,555	2,507
長期前払費用	1,436	1,525
繰延税金資産	1,354	1,949
その他	2,404	3,498
貸倒引当金	△1,099	△1,723
投資その他の資産合計	11,571	13,779
固定資産合計	63,542	64,223
資産合計	229,610	253,158

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※2, ※5 71,514	※2, ※5 76,978
短期借入金	7,410	7,150
リース債務	287	613
未払法人税等	5,377	7,846
前受金	7,239	8,462
賞与引当金	2,788	2,858
その他	13,563	14,774
流動負債合計	108,180	118,682
固定負債		
リース債務	717	1,604
繰延税金負債	83	60
再評価に係る繰延税金負債	※3 189	※3 189
退職給付引当金	1,902	2,146
役員退職慰労引当金	482	522
資産除去債務	228	230
その他	440	453
固定負債合計	4,043	5,207
負債合計	112,224	123,890
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,374	10,374
資本剰余金	16,254	16,254
利益剰余金	104,308	115,688
自己株式	△125	△126
株主資本合計	130,812	142,191
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	291	678
土地再評価差額金	※3 △14,304	※3 △14,304
為替換算調整勘定	△165	△93
その他の包括利益累計額合計	△14,178	△13,719
少数株主持分	752	796
純資産合計	117,385	129,268
負債純資産合計	229,610	253,158

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
売上高	478,215	515,771
売上原価	371,828	401,113
売上総利益	106,387	114,658
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	36,983	37,844
役員報酬	630	612
福利厚生費	5,511	5,675
賃借料	5,298	5,258
運送費及び保管費	11,553	12,781
賞与引当金繰入額	1,803	1,845
退職給付費用	2,144	2,280
役員退職慰労引当金繰入額	76	75
貸倒引当金繰入額	131	153
減価償却費	3,619	3,528
その他	15,540	16,352
販売費及び一般管理費合計	※1 83,292	※1 86,407
営業利益	23,095	28,251
営業外収益		
受取利息	55	53
受取配当金	53	66
受取家賃	214	237
為替差益	58	—
リサイクル収入	76	81
持分法による投資利益	—	343
その他	165	169
営業外収益合計	624	952
営業外費用		
支払利息	76	73
為替差損	—	48
持分法による投資損失	325	—
その他	2	1
営業外費用合計	404	123
経常利益	23,315	29,079

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
特別利益		
投資有価証券売却益	3	61
関係会社株式売却益	—	37
受取補償金	—	112
貸倒引当金戻入額	91	—
特別利益合計	95	210
特別損失		
固定資産除却損	※2 167	※2 208
減損損失	19	177
投資有価証券評価損	48	18
貸倒引当金繰入額	※3 292	※3 485
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	510	—
その他	21	1
特別損失合計	1,060	891
税金等調整前当期純利益	22,350	28,399
法人税、住民税及び事業税	9,629	12,353
法人税等調整額	△122	△368
法人税等合計	9,506	11,985
少数株主損益調整前当期純利益	12,844	16,413
少数株主利益	100	135
当期純利益	12,744	16,277

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	12,844	16,413
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△89	383
土地再評価差額金	26	—
持分法適用会社に対する持分相当額	△37	75
その他の包括利益合計	△99	※ 459
包括利益	12,745	16,873
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	12,645	16,736
少数株主に係る包括利益	99	136

③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	10,374	10,374
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	10,374	10,374
資本剰余金		
当期首残高	16,254	16,254
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	16,254	16,254
利益剰余金		
当期首残高	95,830	104,308
当期変動額		
剰余金の配当	△4,266	△4,898
当期純利益	12,744	16,277
連結範囲の変動	—	△22
持分法の適用範囲の変動	—	23
当期変動額合計	8,477	11,380
当期末残高	104,308	115,688
自己株式		
当期首残高	△124	△125
当期変動額		
自己株式の取得	△0	△0
当期変動額合計	△0	△0
当期末残高	△125	△126
株主資本合計		
当期首残高	122,335	130,812
当期変動額		
剰余金の配当	△4,266	△4,898
当期純利益	12,744	16,277
連結範囲の変動	—	△22
持分法の適用範囲の変動	—	23
自己株式の取得	△0	△0
当期変動額合計	8,477	11,379
当期末残高	130,812	142,191

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金		
当期首残高	383	291
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△92	386
当期変動額合計	△92	386
当期末残高	291	678
土地再評価差額金		
当期首残高	△14,331	△14,304
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	26	—
当期変動額合計	26	—
当期末残高	△14,304	△14,304
為替換算調整勘定		
当期首残高	△131	△165
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△33	71
当期変動額合計	△33	71
当期末残高	△165	△93
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△14,079	△14,178
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△98	458
当期変動額合計	△98	458
当期末残高	△14,178	△13,719
少数株主持分		
当期首残高	675	752
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	76	44
当期変動額合計	76	44
当期末残高	752	796
純資産合計		
当期首残高	108,931	117,385
当期変動額		
剰余金の配当	△4,266	△4,898
当期純利益	12,744	16,277
連結範囲の変動	—	△22
持分法の適用範囲の変動	—	23
自己株式の取得	△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△22	503
当期変動額合計	8,454	11,882
当期末残高	117,385	129,268

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	22,350	28,399
減価償却費	5,944	5,766
減損損失	19	177
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	116	469
受取利息及び受取配当金	△108	△120
支払利息	76	73
持分法による投資損益 (△は益)	325	△343
関係会社株式売却損益 (△は益)	—	△36
受取補償金	—	△112
固定資産除却損	167	208
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	510	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,884	△7,491
たな卸資産の増減額 (△は増加)	1,931	1,125
仕入債務の増減額 (△は減少)	3,992	5,506
投資有価証券売却損益 (△は益)	△3	△60
投資有価証券評価損益 (△は益)	48	18
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△20	146
その他	1,069	1,848
小計	32,535	35,574
利息及び配当金の受取額	144	162
利息の支払額	△77	△73
補償金の受取額	—	112
法人税等の支払額	△9,444	△9,897
営業活動によるキャッシュ・フロー	23,158	25,879
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,459	△1,963
有形固定資産の売却による収入	17	0
ソフトウェアの取得による支出	△2,522	△2,654
投資有価証券の取得による支出	△110	△1,078
投資有価証券の売却による収入	8	110
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	50
関係会社株式の売却による収入	—	615
長期貸付けによる支出	△291	△279
長期貸付金の回収による収入	63	44
その他	690	260
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,604	△4,894
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	100	△250
長期借入金の返済による支出	△40	△10
配当金の支払額	△4,264	△4,898
その他	△24	△32
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,229	△5,190
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	14,324	15,793
現金及び現金同等物の期首残高	37,924	52,320
連結子会社の合併による現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	71	—
現金及び現金同等物の期末残高	※ 52,320	※ 68,113

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 7社

連結子会社の名称

(株)OSK

(株)ネットプラン

(株)アルファテクノ

(株)アルファシステム

(株)アルファネット

(株)ネットワークド

大塚オートサービス(株)

従来、連結子会社であった(株)大塚ビジネスサービスは、当社が所有する株式の一部を売却したことにより関連会社となったため、当連結会計年度より連結の範囲から除外しております。

連結の範囲から除外した子会社欧智卡信息系统商貿(上海)有限公司他3社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていません。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用の関連会社数 2社

会社等の名称

大塚資訊科技(股)有限公司

(株)ライオン事務器

従来、持分法適用関連会社であったサイオステクノロジー(株)は、当社が所有する株式の一部を売却したことにより、重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より持分法の適用範囲から除外しております。

また、決算日と連結決算日との差異がある(株)ライオン事務器については、連結決算日直近となる中間決算日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、持分法適用上必要な修正を行っております。

持分法の範囲から除外した非連結子会社欧智卡信息系统商貿(上海)有限公司他3社及び関連会社日本ナレッジ(株)他8社は、いずれも小規模であり、それぞれ当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日はすべて連結決算日と同一であります。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

② デリバティブ

時価法

③ たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

商品

主として移動平均法

仕掛品

個別法

原材料及び貯蔵品

主として移動平均法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 15～50年

その他 4～10年

② 無形固定資産(リース資産を除く)

市場販売目的のソフトウェア

見込販売金額に基づき、当連結会計年度の販売金額に対応する金額を償却しております。ただし、毎期の償却額は残存有効期間(見込有効期間3年以内)に基づく均等配分額を下回らないこととしております。

自社利用のソフトウェア

社内における利用可能期間(主として5年)に基づく定額法によっております。

その他の無形固定資産

定額法

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が平成20年12月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

④ 長期前払費用

定額法

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

③ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

なお、過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(12年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(主として12年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

④ 役員退職慰労引当金

当社及び連結子会社7社では役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

受注制作のソフトウェア等に係る収益及び費用の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められるもの

工事進行基準(原則として、工事の進捗率の見積りは原価比例法)

その他のもの

工事完成基準

(5) のれんの償却に関する事項

のれんは、発生年度において実質的判断による償却期間の見積りが可能なものはその見積り年数で、その他については5年間で均等償却を行っております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の処理方法

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

【会計方針の変更】

該当事項はありません。

【未適用の会計基準等】

- ・「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日）
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日）

(1) 概要

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用は、連結貸借対照表の純資産の部において税効果を調整した上で認識し、積立状況を示す額を負債又は資産として計上する方法に改正されました。また、退職給付見込額の期間帰属方法について、期間定額基準のほか給付算定式基準の適用が可能となったほか、割引率の算定方法が改正されました。

(2) 適用予定日

平成26年12月期の期末より適用予定です。ただし、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成27年12月期の期首より適用予定です。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中です。

【表示方法の変更】

該当事項はありません。

【追加情報】

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

※1. 非連結子会社及び関連会社に対する主なものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
投資有価証券(株式)	2,390百万円	2,201百万円
投資有価証券(出資金)	217	217

※2. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は、次のとおりであります。

(イ) 担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
定期預金	5百万円	5百万円

(ロ) 上記に対応する債務

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
支払手形及び買掛金	5百万円	5百万円

※3. 「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成13年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、再評価差額から再評価に係る繰延税金負債を控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める路線価及び路線価のない土地は第2条第3号に定める固定資産税評価額に基づき、奥行き価格補正等の合理的な調整を行って算出しております。

再評価を行った年月日 平成13年12月31日

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	△734百万円	△797百万円

※4. 連結会計年度末日満期手形の会計処理については、当連結会計年度末日は金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しています。連結会計年度末日満期手形は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
受取手形	428百万円	448百万円

※5. 支払手形及び買掛金には、債権者が債権を資金化できる支払信託が含まれております。連結会計年度末日の支払信託は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
支払信託	14,888百万円	14,480百万円

(連結損益計算書関係)

※1. 研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費	217百万円	377百万円

※2. 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
建物及び構築物	124百万円	64百万円
有形固定資産その他	38	103
ソフトウェア	5	40
計	167	208

※3. 特別損失に計上している貸倒引当金繰入額は、すべて関係会社に対するものであります。

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

※その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金

当期発生額	566百万円
組替調整額	18
税効果調整前	585
税効果額	△201
その他有価証券評価差額金	383

持分法適用会社に対する持分相当額

当期発生額	75
組替調整額	△0
持分法適用会社に対する持分相当額	75

その他の包括利益合計 459

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度増加 株式数(千株)	当連結会計年度減少 株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
普通株式	31,667	—	—	31,667

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度増加 株式数(千株)	当連結会計年度減少 株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
普通株式(注)	65	0	—	65

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取による増加であります。

3. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年3月29日 定時株主総会	普通株式	4,266	135.00	平成22年12月31日	平成23年3月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年3月28日 定時株主総会	普通株式	4,898	利益剰余金	155.00	平成23年12月31日	平成24年3月29日

当連結会計年度(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度増加 株式数(千株)	当連結会計年度減少 株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
普通株式	31,667	—	—	31,667

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度増加 株式数(千株)	当連結会計年度減少 株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
普通株式(注)	65	0	—	65

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取による増加であります。

3. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年3月28日 定時株主総会	普通株式	4,898	155.00	平成23年12月31日	平成24年3月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年3月27日 定時株主総会	普通株式	6,320	利益剰余金	200.00	平成24年12月31日	平成25年3月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
現金及び預金	45,600百万円	61,519百万円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	△55	△55
取得日から3ヶ月以内に満期又は 償還期限の到来する有価証券	5,000	5,000
その他流動資産に含まれる運用 期間が3ヶ月以内の信託受益権	1,774	1,648
現金及び現金同等物	52,320	68,113

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引 (借主側)

重要性が乏しいため、注記を省略しております。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
1年内	692百万円	563百万円
1年超	1,782	1,332
合計	2,474	1,895

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、取引先ごとに与信管理を徹底し、回収期日や残高を定期的に管理することで、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

有価証券及び投資有価証券は、主に満期保有目的の債券及び業務上の関係を有する企業等の株式であります。主に債券や上場株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価や発行体の財務状況等进行分析・把握することで回収可能性の確保や減損懸念の軽減を図っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほぼ3ヶ月以内の支払期日であります。借入金は、主に運転資金に係る資金調達であります。

また、これら支払手形及び買掛金、借入金、未払法人税等の金銭債務は、流動性リスクに晒されておりますが、資金繰計画を作成する等の方法により管理しております。

デリバティブ取引は、一部の連結子会社の為替予約取引であり、執行・管理については、取引権限を定めた社内規程に従うこととしております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(平成23年12月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	45,600	45,600	—
(2) 受取手形及び売掛金	79,558	79,558	—
(3) 有価証券及び投資有価証券			
① 満期保有目的の債券	5,000	5,000	—
② その他有価証券	1,635	1,635	—
③ 関連会社株式	1,319	1,319	△0
資産計	133,114	133,114	△0
(4) 支払手形及び買掛金	71,514	71,514	—
(5) 短期借入金(*1)	7,400	7,400	—
(6) 未払法人税等	5,377	5,377	—
負債計	84,291	84,291	—
デリバティブ取引(*2)	(0)	(0)	—

(*1) 短期借入金は、1年内返済予定の長期借入金を除いております。

(*2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で示しております。

当連結会計年度(平成24年12月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	61,519	61,519	—
(2) 受取手形及び売掛金	86,983	86,983	—
(3) 有価証券及び投資有価証券			
① 満期保有目的の債券	5,000	5,000	—
② その他有価証券	3,272	3,272	—
③ 関連会社株式	909	1,204	294
資産計	157,686	157,980	294
(4) 支払手形及び買掛金	76,978	76,978	—
(5) 短期借入金	7,150	7,150	—
(6) 未払法人税等	7,846	7,846	—
負債計	91,974	91,974	—
デリバティブ取引(*)	18	18	—

(*) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負債

(4) 支払手形及び買掛金、(5) 短期借入金、(6) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成23年12月31日	平成24年12月31日
非上場株式等	1,881	1,760
投資事業有限責任組合等への出資	81	77

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度(平成23年12月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	45,600	—	—	—
受取手形及び売掛金	79,558	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券	5,000	—	—	—
合計	130,158	—	—	—

当連結会計年度(平成24年12月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	61,519	—	—	—
受取手形及び売掛金	86,983	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券	5,000	—	—	—
合計	153,503	—	—	—

(有価証券関係)

1. 売買目的有価証券

該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成23年12月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表 計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	—	—	—
	(2) 社債	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	—	—	—
時価が連結貸借対照表 計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	—	—	—
	(2) 社債	—	—	—
	(3) その他	5,000	5,000	—
	小計	5,000	5,000	—
合計		5,000	5,000	—

当連結会計年度(平成24年12月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表 計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	—	—	—
	(2) 社債	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	—	—	—
時価が連結貸借対照表 計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	—	—	—
	(2) 社債	—	—	—
	(3) その他	5,000	5,000	—
	小計	5,000	5,000	—
合計		5,000	5,000	—

3. その他有価証券

前連結会計年度(平成23年12月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,297	694	603
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	1,297	694	603
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	277	372	△95
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	60	92	△31
	小計	338	464	△126
合計		1,635	1,159	476

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額593百万円)及び投資事業有限責任組合等への出資(連結貸借対照表計上額81百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成24年12月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,855	763	1,092
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	1,855	763	1,092
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	351	381	△29
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	1,064	1,073	△8
	小計	1,416	1,454	△38
合計		3,272	2,218	1,054

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額252百万円)及び投資事業有限責任組合等への出資(連結貸借対照表計上額77百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

4. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
(1) 株式	8	3	—
(2) 債券			
① 国債・地方債等	—	—	—
② 社債	—	—	—
③ その他	—	—	—
(3) その他	—	—	—
合計	8	3	—

当連結会計年度(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
(1) 株式	110	61	0
(2) 債券			
① 国債・地方債等	—	—	—
② 社債	—	—	—
③ その他	—	—	—
(3) その他	—	—	—
合計	110	61	0

5. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、その他有価証券の株式について48百万円減損処理を行っております。

当連結会計年度において、その他有価証券の株式について18百万円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(平成23年12月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超(百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	買建 米ドル	46	—	△0	△0
合計		46	—	△0	△0

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成24年12月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超(百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	買建 米ドル	570	—	18	18
合計		570	—	18	18

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、退職給付型の制度として、確定拠出年金、規約型確定給付企業年金及び退職一時金制度を設けており、確定拠出年金については7社、規約型確定給付企業年金については4社が加入し、退職一時金制度については5社が有しております。

また、連結子会社中1社は総合設立型基金に加入しております。

なお、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
(1) 退職給付債務(注)(百万円)	△33,944	△35,672
(2) 年金資産(百万円)	33,305	36,567
(3) 未積立退職給付債務(1)+(2)(百万円)	△639	894
(4) 未認識数理計算上の差異(百万円)	4,231	1,748
(5) 未認識過去勤務債務(債務の減額)(百万円)	△4,122	△3,320
(6) 連結貸借対照表上計上額純額(3)+(4)+(5)(百万円)	△530	△677
(7) 前払年金費用(百万円)	1,371	1,469
(8) 退職給付引当金(6)-(7)(百万円)	△1,902	△2,146

前連結会計年度
(平成23年12月31日)

当連結会計年度
(平成24年12月31日)

(注) 当社及び連結子会社中2社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

当社及び連結子会社中2社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
退職給付費用	3,319	3,476
(1) 勤務費用(注)(百万円)	2,213	2,324
(2) 利息費用(百万円)	476	498
(3) 期待運用収益(減算)(百万円)	△162	△166
(4) 過去勤務債務の費用処理額(百万円)	△793	△801
(5) 数理計算上の差異の費用処理額(百万円)	553	604
(6) 確定拠出年金への掛金支払額(百万円)	798	804
(7) 臨時に支払った割増退職金(百万円)	234	212

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は「(1) 勤務費用」に計上しております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 割引率

前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
1.5%	1.5%

(2) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
0.5%	0.5%

(3) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(4) 過去勤務債務の処理年数

12年

(5) 数理計算上の差異の処理年数

翌連結会計年度より11年～12年

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	351百万円	538百万円
未払事業税等	537	665
賞与引当金	1,152	1,104
退職給付引当金	688	774
役員退職慰労引当金	173	187
減損損失	950	961
ソフトウェア開発費	1,444	1,454
固定資産未実現利益	280	303
その他	1,768	1,807
小計	7,347	7,797
評価性引当額	△1,624	△1,667
繰延税金資産合計	5,723	6,129
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△164	△363
前払年金費用	△495	△525
その他	△71	△80
繰延税金負債合計	△731	△969
繰延税金資産の純額	4,991	5,159

繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
流動資産－繰延税金資産	3,723百万円	3,272百万円
固定資産－繰延税金資産	1,354	1,949
流動負債－その他	△3	△1
固定負債－繰延税金負債	△83	△60

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

(前連結会計年度)

法定実効税率(40.7%)と税効果会計適用後の法人税等の負担率(42.5%)との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(当連結会計年度)

法定実効税率(40.7%)と税効果会計適用後の法人税等の負担率(42.2%)との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(企業結合等関係)

重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、情報システムの構築・稼働までを事業領域とする「システムインテグレーション事業」と、システム稼働後のサポートを事業領域とする「サービス&サポート事業」を主な事業としております。

従って、当社は「システムインテグレーション事業」及び「サービス&サポート事業」を報告セグメントとしております。

具体的な事業内容としては、次のとおりであります。「システムインテグレーション事業」は、コンサルティングからシステム設計・開発・搬入設置工事、ネットワーク構築まで最適なシステムを提供しております。「サービス&サポート事業」は、サプライ供給、ハード&ソフト保守、テレフォンサポート、アウトソーシングサービス等により導入システムや企業活動をトータルにサポートしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。また、報告セグメントの利益は営業利益ベースの数値であり、各セグメント間の内部取引は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸表 計上額 (注3)
	システムイン テグレーション 事業	サービス& サポート事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	262,508	214,576	477,084	1,130	478,215	—	478,215
セグメント間の内部売上高 又は振替高	104	488	593	2,048	2,641	△2,641	—
計	262,612	215,065	477,678	3,178	480,857	△2,641	478,215
セグメント利益	22,717	7,485	30,202	97	30,299	△7,204	23,095
セグメント資産	89,240	79,120	168,360	1,853	170,214	59,396	229,610
その他の項目							
減価償却費(注4)	3,157	2,198	5,356	47	5,404	540	5,944
持分法適用会社への投資額	1,319	943	2,262	—	2,262	—	2,262
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額(注4)	2,936	2,168	5,104	26	5,131	191	5,322

(注) 1. その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル保守管理、自動車整備、保険、DM、情報管理等の事業を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額△7,204百万円には、主として、各報告セグメントに配分していない全社費用△7,234百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門に係る費用であります。

(2) セグメント資産の調整額59,396百万円には、主として、全社資産61,024百万円が含まれております。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の余資運用資金(現金及び預金、投資有価証券)及び親会社の管理部門に係る資産であります。

(3) その他の項目の減価償却費の調整額540百万円は、主に全社資産に係る減価償却費であります。有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額191百万円は、主に全社資産に係る増加額であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. その他の項目の減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、長期前払費用に係る金額が含まれております。

当連結会計年度(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸表 計上額 (注3)
	システムイン テグレーション 事業	サービス& サポート事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	289,840	225,298	515,139	632	515,771	-	515,771
セグメント間の内部売上高 又は振替高	131	497	629	2,066	2,695	△2,695	-
計	289,972	225,796	515,768	2,699	518,467	△2,695	515,771
セグメント利益	27,062	8,528	35,590	91	35,682	△7,431	28,251
セグメント資産	94,254	79,815	174,070	1,457	175,527	77,630	253,158
その他の項目							
減価償却費(注4)	3,093	2,113	5,206	36	5,243	522	5,766
持分法適用会社への投資額	515	1,149	1,665	-	1,665	-	1,665
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額(注4)	2,484	1,643	4,128	9	4,137	481	4,618

(注) 1. その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル保守管理、自動車整備、保険等の事業を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△7,431百万円には、主として、各報告セグメントに配分していない全社費用△7,450百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門に係る費用であります。
- (2) セグメント資産の調整額77,630百万円には、主として、全社資産79,052百万円が含まれております。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の余資運用資金(現金及び預金、投資有価証券)及び親会社の管理部門に係る資産であります。
- (3) その他の項目の減価償却費の調整額522百万円は、主に全社資産に係る減価償却費であります。有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額481百万円は、主に全社資産に係る増加額であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. その他の項目の減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、長期前払費用に係る金額が含まれております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
1株当たり純資産額 3,690.81円	1株当たり純資産額 4,065.43円
1株当たり当期純利益金額 403.28円	1株当たり当期純利益金額 515.11円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 403.10円	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、 潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	117,385	129,268
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	752	796
(うち少数株主持分(百万円))	(752)	(796)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	116,633	128,471
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末 の普通株式の数(千株)	31,601	31,601

(注) 2. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	12,744	16,277
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	12,744	16,277
期中平均株式数(千株)	31,601	31,601
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(百万円)	△5	—
(うち関連会社に対する親会社の持分比率変動によるもの(税額相当額控除後)(百万円))	(△5)	(—)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	持分法適用関連会社サイオステクノロジー(株)の発行する平成15年10月14日開催の臨時株主総会に基づく第1回新株予約権(ストックオプション)768株、平成18年3月28日開催の定時株主総会に基づく第3回新株予約権(ストックオプション)680株 ※同社は平成17年9月20日付で1株につき2株の株式分割を行っております。	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	7,400	7,150	0.94	—
1年以内に返済予定の長期借入金	10	—	—	—
1年以内に返済予定のリース債務	287	613	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	—	—	—	—
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	717	1,604	—	平成26年～平成30年
その他有利子負債	—	—	—	—
計	8,415	9,367	—	—

- (注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。
2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
3. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
リース債務	589	517	367	125

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	135,458	266,392	384,191	515,771
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	7,046	17,063	21,475	28,399
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	4,083	9,930	12,431	16,277
1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	129.23	314.25	393.40	515.11

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	129.23	185.02	79.15	121.71

2 【財務諸表等】
 (1) 【財務諸表】
 ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	※1 43,438	※1 58,941
受取手形	※4 4,412	※4 3,342
売掛金	68,129	74,841
有価証券	5,000	5,000
商品	14,662	13,285
仕掛品	557	611
原材料及び貯蔵品	937	901
前渡金	3,574	3,944
前払費用	749	794
繰延税金資産	2,758	2,763
短期貸付金	※3 1,264	※3 663
未収入金	6,642	6,722
信託受益権	1,774	1,648
その他	490	832
貸倒引当金	△453	△535
流動資産合計	153,940	173,757
固定資産		
有形固定資産		
建物	64,307	64,593
減価償却累計額及び減損損失累計額	△38,317	△39,730
建物（純額）	25,990	24,862
構築物	2,174	2,188
減価償却累計額及び減損損失累計額	△1,705	△1,766
構築物（純額）	469	421
車両運搬具	123	99
減価償却累計額及び減損損失累計額	△119	△98
車両運搬具（純額）	3	1
工具、器具及び備品	13,422	13,284
減価償却累計額及び減損損失累計額	△10,610	△10,391
工具、器具及び備品（純額）	2,812	2,892
土地	※2 16,666	※2 16,635
有形固定資産合計	45,943	44,813
無形固定資産		
電話加入権	93	93
ソフトウェア	3,651	3,595
その他	1	—
無形固定資産合計	3,746	3,689

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	2,263	3,546
関係会社株式	6,289	5,661
関係会社出資金	217	217
長期貸付金	24	18
従業員に対する長期貸付金	19	16
関係会社長期貸付金	1,337	1,188
差入保証金	1,985	1,953
破産更生債権等	628	678
長期前払費用	1,316	1,417
繰延税金資産	610	577
その他	1,003	1,800
貸倒引当金	△1,527	△1,796
投資その他の資産合計	14,167	15,279
固定資産合計	63,857	63,782
資産合計	217,797	237,539
負債の部		
流動負債		
支払手形	107	160
支払信託	14,888	14,480
買掛金	※1, ※3 53,714	※1, ※3 58,379
短期借入金	5,600	5,600
リース債務	256	583
未払金	6,351	6,827
未払費用	2,792	3,005
未払法人税等	4,900	7,016
未払消費税等	998	1,054
前受金	5,206	5,602
預り金	※3 6,806	※3 7,535
賞与引当金	2,390	2,475
流動負債合計	104,014	112,721
固定負債		
リース債務	639	1,540
再評価に係る繰延税金負債	※2 189	※2 189
退職給付引当金	403	508
役員退職慰労引当金	346	379
資産除去債務	212	214
その他	451	464
固定負債合計	2,243	3,297
負債合計	106,257	116,019

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,374	10,374
資本剰余金		
資本準備金	16,254	16,254
資本剰余金合計	16,254	16,254
利益剰余金		
利益準備金	2,593	2,593
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	17	17
別途積立金	57,350	57,350
繰越利益剰余金	39,068	48,670
利益剰余金合計	99,029	108,631
自己株式	△125	△126
株主資本合計	125,533	135,134
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	311	689
土地再評価差額金	※2 △14,304	※2 △14,304
評価・換算差額等合計	△13,993	△13,614
純資産合計	111,540	121,520
負債純資産合計	217,797	237,539

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
売上高		
システムインテグレーション売上高	233,517	251,906
サービス&サポート売上高	211,107	222,352
売上高合計	※1 444,625	※1 474,259
売上原価		
システムインテグレーション売上原価	186,173	199,579
サービス&サポート売上原価	160,110	169,028
売上原価合計	346,284	368,607
売上総利益	98,341	105,651
販売費及び一般管理費		
業務委託費	1,257	1,266
広告宣伝費	3,416	3,445
運送費及び保管費	11,281	12,511
通信費	1,337	1,352
旅費及び交通費	1,822	1,886
貸倒引当金繰入額	104	146
役員報酬	369	357
給料手当及び賞与	33,923	34,714
賞与引当金繰入額	1,625	1,694
退職給付費用	1,923	2,055
役員退職慰労引当金繰入額	44	44
福利厚生費	4,987	5,148
賃借料	4,870	4,826
消耗品費	672	783
修繕維持費	2,113	2,421
減価償却費	3,515	3,401
その他	※3 4,148	※3 4,293
販売費及び一般管理費合計	77,415	80,351
営業利益	20,925	25,300
営業外収益		
受取利息	82	64
受取配当金	※2 183	※2 242
受取家賃	※2 260	※2 282
その他	246	260
営業外収益合計	773	850
営業外費用		
支払利息	※2 70	※2 71
為替差損	—	23
その他	0	1
営業外費用合計	70	96
経常利益	21,628	26,053

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
特別利益		
投資有価証券売却益	3	61
関係会社株式売却益	—	53
受取補償金	—	112
貸倒引当金戻入額	73	—
投資損失引当金戻入額	300	—
特別利益合計	377	226
特別損失		
固定資産除却損	※4 118	※4 204
減損損失	21	184
投資有価証券評価損	18	18
貸倒引当金繰入額	※5 82	※5 371
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	427	—
その他	0	2
特別損失合計	668	781
税引前当期純利益	21,336	25,498
法人税、住民税及び事業税	8,856	11,169
法人税等調整額	△39	△171
法人税等合計	8,817	10,998
当期純利益	12,519	14,500

【売上原価明細書】

(イ) システムインテグレーション売上原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)		当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
I 期首商品たな卸高			11,565		9,767
II 当期商品仕入高			164,547		176,689
III 受託ソフト原価					
1. 外注加工費		10,250	51.6	11,411	53.8
2. 労務費	※2	8,160	41.1	8,190	38.6
3. 経費	※3	1,449	7.3	1,606	7.6
当期総製造費用		19,860	100.0	21,208	100.0
期首仕掛品たな卸高		526		557	
計		20,386		21,766	
期末仕掛品たな卸高		557	19,828	611	21,155
合計			195,941		207,612
IV 期末商品たな卸高			9,767		8,033
システムインテグレーション 売上原価			186,173		199,579

労務費・経費につきましては、予定原価を適用し、原価差額については期末において調整計算を行っております。

(脚注)

前事業年度	当事業年度
1. 原価計算の方法は、個別原価計算によっております。	1. 同左
※2. 労務費の主な内訳は、次のとおりであります。 給料手当及び賞与 6,723百万円 福利厚生費 828 退職給付費用 322 賞与引当金繰入額 285	※2. 労務費の主な内訳は、次のとおりであります。 給料手当及び賞与 6,691百万円 福利厚生費 862 退職給付費用 337 賞与引当金繰入額 299
※3. 経費の主な内訳は、次のとおりであります。 業務委託費 222百万円 賃借料 319 修繕維持費 275	※3. 経費の主な内訳は、次のとおりであります。 業務委託費 350百万円 賃借料 311 修繕維持費 307

(ロ) サービス&サポート売上原価明細書

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)		当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
I 期首商品たな卸高			5,181		4,894
II 当期商品仕入高			89,835		96,807
III 保守等原価					
1. 保守部品費	※1	5,799	8.3	5,615	7.7
2. 支払手数料		11,336	16.2	11,768	16.2
3. 外注加工費		34,034	48.6	36,201	49.9
4. 労務費	※2	13,675	19.5	13,183	18.2
5. 経費	※3	5,142	7.4	5,809	8.0
当期総製造費用		69,987	69,987	72,578	72,578
合計			165,005		174,280
IV 期末商品たな卸高			4,894		5,252
サービス& サポート売上原価			160,110		169,028

(脚注)

前事業年度	当事業年度
※1. 保守部品費にはホテルの食材費439百万円を含めております。	※1. 保守部品費にはホテルの食材費471百万円を含めております。
※2. 労務費の主な内訳は、次のとおりであります。 給料手当及び賞与 11,267百万円 福利厚生費 1,388 退職給付費用 540 賞与引当金繰入額 479	※2. 労務費の主な内訳は、次のとおりであります。 給料手当及び賞与 10,770百万円 福利厚生費 1,388 退職給付費用 543 賞与引当金繰入額 481
※3. 経費の主な内訳は、次のとおりであります。 業務委託費 789百万円 賃借料 1,133 修繕維持費 977	※3. 経費の主な内訳は、次のとおりであります。 業務委託費 1,267百万円 賃借料 1,126 修繕維持費 1,113

③【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	10,374	10,374
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	10,374	10,374
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	16,254	16,254
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	16,254	16,254
資本剰余金合計		
当期首残高	16,254	16,254
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	16,254	16,254
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	2,593	2,593
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	2,593	2,593
その他利益剰余金		
プログラム等準備金		
当期首残高	154	—
当期変動額		
プログラム等準備金の取崩	△154	—
当期変動額合計	△154	—
当期末残高	—	—
固定資産圧縮積立金		
当期首残高	15	17
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の積立	1	—
当期変動額合計	1	—
当期末残高	17	17
別途積立金		
当期首残高	57,350	57,350
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	57,350	57,350

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
繰越利益剰余金		
当期首残高	30,662	39,068
当期変動額		
剰余金の配当	△4,266	△4,898
プログラム等準備金の取崩	154	—
固定資産圧縮積立金の積立	△1	—
当期純利益	12,519	14,500
当期変動額合計	8,406	9,602
当期末残高	39,068	48,670
利益剰余金合計		
当期首残高	90,776	99,029
当期変動額		
剰余金の配当	△4,266	△4,898
プログラム等準備金の取崩	—	—
固定資産圧縮積立金の積立	—	—
当期純利益	12,519	14,500
当期変動額合計	8,252	9,602
当期末残高	99,029	108,631
自己株式		
当期首残高	△124	△125
当期変動額		
自己株式の取得	△0	△0
当期変動額合計	△0	△0
当期末残高	△125	△126
株主資本合計		
当期首残高	117,281	125,533
当期変動額		
剰余金の配当	△4,266	△4,898
当期純利益	12,519	14,500
自己株式の取得	△0	△0
当期変動額合計	8,252	9,601
当期末残高	125,533	135,134

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	396	311
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△84	378
当期変動額合計	△84	378
当期末残高	311	689
土地再評価差額金		
当期首残高	△14,331	△14,304
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	26	—
当期変動額合計	26	—
当期末残高	△14,304	△14,304
評価・換算差額等合計		
当期首残高	△13,935	△13,993
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△57	378
当期変動額合計	△57	378
当期末残高	△13,993	△13,614
純資産合計		
当期首残高	103,346	111,540
当期変動額		
剰余金の配当	△4,266	△4,898
当期純利益	12,519	14,500
自己株式の取得	△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△57	378
当期変動額合計	8,194	9,980
当期末残高	111,540	121,520

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

(2) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(3) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

商品

移動平均法

仕掛品

個別法

原材料及び貯蔵品

主として移動平均法

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 15～50年

その他 4～10年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェア

社内における利用可能期間(主として5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が平成20年12月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(4) 長期前払費用

定額法

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し回収不能見込額を計上しております。

(2) 投資損失引当金

関係会社への投資に係る損失に備えるため、当該会社の財政状態を勘案して必要額を計上しております。

(3) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、計上しております。

なお、過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(12年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(12年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

5. 収益及び費用の計上基準

受注制作のソフトウェア等に係る収益及び費用の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められるもの

工事進行基準(原則として、工事の進捗率の見積りは原価比例法)

その他のもの

工事完成基準

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の処理方法

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

【会計方針の変更】

該当事項はありません。

【表示方法の変更】

該当事項はありません。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

※1. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。

(イ) 担保に供している資産

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
定期預金	5百万円	5百万円

(ロ) 上記に対応する債務

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
買掛金	5百万円	5百万円

※2. 「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成13年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、再評価差額から再評価に係る繰延税金負債を控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める路線価及び路線価のない土地は第2条第3号に定める固定資産税評価額に基づき、奥行き価格補正等の合理的な調整を行って算出しております。

再評価を行った年月日 平成13年12月31日

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	△734百万円	△797百万円

※3. 関係会社に対する主な資産及び負債

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
短期貸付金	1,239百万円	648百万円
買掛金	4,078	4,965
預り金	3,844	4,218

※4. 期末日満期手形の会計処理については、当期末日は金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。期末日満期手形は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
受取手形	383百万円	401百万円

(損益計算書関係)

※1. 売上高の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
商品売上高	307,978百万円	331,161百万円
役務売上高	136,647	143,097
計	444,625	474,259

※2. 関係会社との取引に係るものが、次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
受取配当金	131百万円	177百万円
受取家賃	74	70
支払利息	16	18

※3. 研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
一般管理費及び当期製造費用に含 まれる研究開発費	166百万円	275百万円

※4. 固定資産除却損の内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
建物	88百万円	63百万円
構築物	1	0
車両運搬具	0	0
工具、器具及び備品	26	100
ソフトウェア	2	40
計	118	204

※5. 特別損失に計上している貸倒引当金繰入額は、すべて関係会社に対するものであります。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数 (千株)	当事業年度増加株式数 (千株)	当事業年度減少株式数 (千株)	当事業年度末株式数 (千株)
普通株式(注)	65	0	—	65

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取による増加であります。

当事業年度(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数 (千株)	当事業年度増加株式数 (千株)	当事業年度減少株式数 (千株)	当事業年度末株式数 (千株)
普通株式(注)	65	0	—	65

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取による増加であります。

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引 (借主側)

重要性が乏しいため、注記を省略しております。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
1年内	390百万円	284百万円
1年超	958	773
合計	1,349	1,057

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

前事業年度(平成23年12月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
子会社株式	—	—	—
関連会社株式	1,319	1,319	0

当事業年度(平成24年12月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
子会社株式	—	—	—
関連会社株式	703	1,204	500

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位:百万円)

区分	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
子会社株式	3,808	3,770
関連会社株式	1,162	1,187
計	4,970	4,958

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	503百万円	651百万円
未払事業税等	486	592
賞与引当金	972	941
退職給付引当金	143	181
役員退職慰労引当金	123	135
減損損失	896	907
ソフトウェア開発費	805	850
その他	1,318	1,349
小計	5,250	5,609
評価性引当額	△1,248	△1,397
繰延税金資産合計	4,002	4,211
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△164	△363
前払年金費用	△446	△484
その他	△22	△22
繰延税金負債合計	△633	△871
繰延税金資産の純額	3,368	3,340

繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
流動資産－繰延税金資産	2,758百万円	2,763百万円
固定資産－繰延税金資産	610	577

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
法定実効税率	法定実効税率(40.7%)と税効果	40.7%
(調整)	会計適用後の法人税等の負担率	
交際費等の損金不算入額	(41.3%)との間の差異が法定実効	0.6
住民税均等割	税率の100分の5以下であるため	0.4
評価性引当額の増減額	注記を省略しております。	0.7
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正		0.9
その他		△0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率		43.1

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)		当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)	
1株当たり純資産額	3,529.63円	1株当たり純資産額	3,845.46円
1株当たり当期純利益金額	396.16円	1株当たり当期純利益金額	458.87円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	111,540	121,520
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	111,540	121,520
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(千株)	31,601	31,601

3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
当期純利益(百万円)	12,519	14,500
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	12,519	14,500
期中平均株式数(千株)	31,601	31,601

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④ 【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他 有価証券	テンプホールディングス株式会社	1,000,000	1,068
		株式会社リコー	237,803	215
		株式会社横浜銀行	382,204	152
		大和ハウス工業株式会社	100,000	147
		株式会社クレディセゾン	50,000	107
		大東建託株式会社	13,100	106
		ウチダエスコ株式会社	180,000	91
		スリープログループ株式会社	360,000	72
		オー・エイ・エス株式会社	20,000	69
		株式会社明光ネットワークジャパン	60,000	57
		その他 55銘柄	1,771,753	314
		小計	4,174,860	2,404
		計	4,174,860	2,404

【債券】

		銘柄	券面総額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
有価証券	満期保有目的 の債券	(譲渡性預金)		
		株式会社横浜銀行	1,900	1,900
		株式会社三菱東京UFJ銀行	1,700	1,700
		株式会社みずほ銀行	1,400	1,400
		小計	5,000	5,000
		計	5,000	5,000

【その他】

種類及び銘柄		投資口数等 (口)	貸借対照表計上額 (百万円)	
投資有価証券	その他 有価証券	(投資信託受益証券) 東京海上日動 円建てリパッケージ債ファンド	1,000,000,000	996
		MHAM日本成長株オープン	90,354,133	36
		ダイワ日本株オープン	50,000,000	32
		(投資事業有限責任組合等) OYベンチャービジネス育成2号 投資事業有限責任組合	25	77
		小計	—	1,142
計		—	1,142	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 及び減損損 失累計額又 は償却累計 額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	64,307	557	272	64,593	39,730	1,621 (134)	24,862
構築物	2,174	19	6	2,188	1,766	67 (5)	421
車両運搬具	123	0	24	99	98	2	1
工具、器具及び備品	13,422	1,274	1,413	13,284	10,391	1,093 (11)	2,892
土地	16,666	—	31 (31)	16,635	—	—	16,635
有形固定資産計	96,695	1,852	1,748 (31)	96,800	51,986	2,785 (151)	44,813
無形固定資産							
電話加入権	93	—	—	93	—	—	93
ソフトウェア	8,141	1,392	935 (0)	8,598	5,002	1,408	3,595
その他	70	—	—	70	70	1	—
無形固定資産計	8,305	1,392	935 (0)	8,762	5,073	1,410	3,689
長期前払費用	102	—	18 (0)	84	27	7	56
繰延資産							
—	—	—	—	—	—	—	—
繰延資産計	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1. 「当期減少額」及び「当期償却額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

2. 長期前払費用には、退職給付に関する前払年金費用は含まれておりません。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	1,980	845	167	327	2,332
賞与引当金	2,390	2,475	2,390	—	2,475
役員退職慰労引当金	346	44	11	—	379

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額及び回収による取崩額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

① 資産の部

1) 現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	30
預金の種類	
当座預金	2,388
普通預金	1,264
通知預金	55,200
定期預金	55
郵便貯金	2
小計	58,910
合計	58,941

2) 受取手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
トッパン・フォームズ株式会社	368
ゼネラル株式会社	211
東芝情報システムプロダクツ株式会社	101
ダイワボウ情報システム株式会社	97
京セラ丸善システムインテグレーション株式会社	96
その他	2,466
合計	3,342

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成25年 1月	1,090
2月	927
3月	805
4月	433
5月	75
6月	10
合計	3,342

3) 売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
株式会社リコー	2,595
株式会社ライオン事務器	1,826
株式会社リクルートホールディングス	1,768
リコーリース株式会社	1,669
株式会社日本ビジネスリース	1,569
その他	65,412
合計	74,841

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日) $\frac{(A)+(D)}{2}$ $\frac{(B)}{366}$
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	
68,129	497,928	491,216	74,841	86.8	52.5

4) 商品

品目	金額(百万円)
システムインテグレーション関連商品	8,033
サービス&サポート関連商品	5,252
合計	13,285

5) 仕掛品

品目	金額(百万円)
受託ソフト	611
合計	611

6) 原材料及び貯蔵品

区分	金額(百万円)
保守用パーツ	774
販促用カタログ	81
ホテル事業部食材他消耗品	31
切手・印紙他金券類	14
合計	901

② 負債の部

1) 支払手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
株式会社オブジェクト・ジャパン	96
京セラ丸善システムインテグレーション株式会社	17
スター精密株式会社	10
河村電器産業株式会社	6
エプソン i ソリューションズ株式会社	6
その他	22
合計	160

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成25年 1 月	49
2 月	78
3 月	32
合計	160

2) 支払信託

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
リコージャパン株式会社	7,426
キヤノンマーケティングジャパン株式会社	2,355
シネックスインフォテック株式会社	920
リコーテクノシステムズ株式会社	810
株式会社東京エコー	592
その他	2,375
合計	14,480

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成25年1月	5,284
2月	6,018
3月	2,303
4月	874
合計	14,480

3) 買掛金

相手先	金額(百万円)
リコージャパン株式会社	4,578
エプソン販売株式会社	4,434
日本マイクロソフト株式会社	3,231
日本ヒューレット・パッカード株式会社	3,056
株式会社富士通パーソナルズ	2,601
その他	40,475
合計	58,379

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日
定時株主総会	3月中
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日 12月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告とします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。ホームページアドレスは次のとおりです。 http://www.otsuka-shokai.co.jp/corporate/ir/stocks/public_notice/index.html
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- 1 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- 2 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- 3 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書の提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第51期(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)平成24年3月28日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成24年3月28日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

第52期第1四半期(自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日)平成24年5月11日関東財務局長に提出

第52期第2四半期(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)平成24年8月9日関東財務局長に提出

第52期第3四半期(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)平成24年11月13日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書

平成24年3月30日関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年3月27日

株式会社大塚商会
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	坂	田	純	孝
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	向	井		誠
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	江	下		聖

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社大塚商会の平成24年1月1日から平成24年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社大塚商会及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社大塚商会の平成24年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社大塚商会が平成24年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成25年 3月27日

株式会社大塚商会
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	坂	田	純	孝
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	向	井		誠
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	江	下		聖

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社大塚商会の平成24年1月1日から平成24年12月31日までの第52期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社大塚商会の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 内部統制報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の4第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年3月27日

【会社名】 株式会社大塚商会

【英訳名】 OTSUKA CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大塚 裕司

【最高財務責任者の役職氏名】 該当事項はありません。

【本店の所在の場所】 東京都千代田区飯田橋二丁目18番4号

【縦覧に供する場所】 株式会社大塚商会関西支社
(大阪市福島区福島六丁目14番1号)

株式会社大塚商会神奈川営業部
(横浜市神奈川区金港町3番地3)

株式会社大塚商会京葉営業部
(千葉県船橋市葛飾町二丁目340番)

株式会社大塚商会北関東営業部
(さいたま市中央区上落合八丁目1番19号)

株式会社大塚商会神戸支店
(神戸市中央区磯上通八丁目3番5号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長大塚裕司は、当社の連結ベースでの財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しています。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものです。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当連結会計年度の末日である平成24年12月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しました。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（以下「全社的な内部統制」という。）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しました。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社、連結子会社及び持分法適用会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、当社及び連結子会社2社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しました。なお、連結子会社5社及び持分法適用会社2社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めていません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね3分の2に達している当社を「重要な事業拠点」として選定しました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として、売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価対象としました。さらに、重要な事業拠点及びそれ以外の事業拠点をも含めた範囲において、①リスクが大きい取引を行っている事業または業務に係る業務プロセス、②見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセス及び③非定型・不規則な取引など虚偽記載が発生するリスクが高いものとして、特に留意すべき業務プロセスを、財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しました。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当連結会計年度末日時点において、当社の連結ベースでの財務報告に係る内部統制は有効であると判断しました。

4 【付記事項】

付記すべき事項はありません。

5 【特記事項】

特記すべき事項はありません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年3月27日
【会社名】	株式会社大塚商会
【英訳名】	OTSUKA CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大塚 裕司
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都千代田区飯田橋二丁目18番4号
【縦覧に供する場所】	株式会社大塚商会関西支社 (大阪市福島区福島六丁目14番1号) 株式会社大塚商会神奈川営業部 (横浜市神奈川区金港町3番地3) 株式会社大塚商会京葉営業部 (千葉県船橋市葛飾町二丁目340番) 株式会社大塚商会北関東営業部 (さいたま市中央区上落合八丁目1番19号) 株式会社大塚商会神戸支店 (神戸市中央区磯上通八丁目3番5号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長大塚裕司は、当社の第52期(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。